



Windows® Server 2012 Essentials

要約

Microsoft は小規模ビジネス向けに Windows Server 2012 Essentials を提供しています。この製品では、簡単なセットアップ、日々のタスクの直感的な管理、ネットワークとデータの包括的な保護、およびビジネス生産性向上のための豊富な機能が提供され、Windows 環境における高い性能も兼ね備えています。

このガイドでは、小規模ビジネス向けのサーバーである Windows Server 2012 Essentials について紹介します。

免責事項

このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。マイクロソフトは市場の変化に対応する必要があるため、このドキュメントの内容に関する責任をマイクロソフトは問われないものとします。また、記載された情報の正確性を保証できません。このドキュメントは現状有姿のまま提供されます。このドキュメントに記載された内容は情報提供のみを目的としています。明示または黙示に関わらず、これらの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。

このドキュメントに記載されている情報 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更することがあります。本ソフトウェアの使用に伴う危険は、すべて使用者が負うものとします。別途記載されていない限り、ここで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などは架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。マイクロソフトは、本ガイドの全体または一部を複製する権利をお客様に付与します。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の知的財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。

最終更新日: 2012 年 11 月

目次

要約.....	1
免責事項.....	2
Windows Server 2012 Essentials の概要	6
ダッシュボードとスタート パッド.....	7
ダッシュボード	7
Windows Server 2012 Essentials やコンピューターのバックアップと復元.....	10
サーバーフォルダー(共有フォルダー)とハードドライブ.....	13
Windows Azure Online Backup.....	16
アドインのインストールと管理.....	17
AnywhereAccess.....	18
コンピューターの追加	19
正常性とセキュリティの監視.....	20
システム要件.....	22
Windows Server 2012 Essentials のセットアップ	23
ステップ1: インストール.....	23
ステップ2: セットアップ.....	28
その他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手(Windows Update 更新)	28
サーバーバックアップのセットアップ.....	29
AnywhereAccess のセットアップ	32
電子メールアラート通知.....	35
メディアサーバーの設定.....	36
サーバーの状態.....	38
電子メールサービスの連携.....	38
Windows Server 2012 Essentials のユーザー管理	44
アカウントの新規作成(管理者).....	44
アカウントの新規作成(標準ユーザー).....	46
パスワードの変更.....	48
アカウントの有効と無効.....	49
アカウントの削除.....	49
パスワードポリシーの設定.....	51
Windows Server 2012 Essentials のコンピューターの管理(デバイス管理)	52
コネクタ アプリケーションのインストール.....	52

ローカルネットワークの場合 (Windows 7)	52
リモートネットワークの場合 (Windows 8)	56
サーバーの場合 (Windows Server 2008 R2)	61
MacOS X の場合	64
コンピューターの削除	66
デバイスのアラート表示	67
グループポリシーの実装	68
ベスト プラクティス アナライザー	69
Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダー (ディスク管理)	70
サーバーフォルダーの作成	71
サーバーフォルダーの移動	72
サーバーフォルダーの共有の停止	73
サーバーフォルダーの削除	74
ハードドライブの追加 (データドライブ)	74
ハードドライブのプロパティ	76
ステータス	76
ドライブのクリーンアップ	76
チェックと修復	77
Windows Server 2012 Essentials のバックアップ	78
コンピューターのバックアップの取得	78
コンピューターのバックアップ項目の追加と削除	79
コンピューターのバックアップの無効	80
コンピューターの復元 (ベアメタル回復)	81
コンピューターのバックアップとファイルの履歴の設定	84
バックアップ データベースの 修復	85
コンピューターの回復ツール	86
ハードドライブの追加 (バックアップ ディスク)	87
サーバーバックアップの取得	90
サーバーバックアップの設定の変更	91
サーバーバックアップの無効	93
サーバーの復元 (ファイルとフォルダー)	94
サーバーの復元 (ベアメタル回復)	96

Windows Server 2012 Essentials のアプリケーション	100
アドインのインストール.....	100
Windows Server 2012 Essentials のスタートパッド	102
バックアップ.....	102
サーバーフォルダー	103
リモート Web アクセス	103
ダッシュボード.....	104
Office 365	104
スタートパッドの設定.....	104
スタートパッドのアドイン.....	105
Windows Server 2012 Essentials のリモートアクセス (AnywhereAccess)	106
リモート Web アクセスのカスタマイズ.....	106
リモート Web アクセス サイト	106
ホーム	106
共有フォルダー	107
コンピューター	107
メディアライブラリ	108
パスワード変更	108
リソース	110
Windows Server 2012 Essentials のブログ	110

Windows Server 2012 Essentials の概要

Windows Server 2012 Essentials (旧称: Windows Small Business Server) は、ユーザー数 25 人まで、デバイス数 50 台までの小規模環境のお客様のコスト削減と生産性向上を支援するよう設計された柔軟で使いやすいサーバーソリューションです。

Windows Server 2012 Essentials は、1 台目のサーバーとして理想的であるだけでなく、小規模企業におけるマルチサーバー環境のプライマリサーバーとして使用することもできます。Windows Server 2012 Essentials を導入することによって、あらゆる場所から、あらゆるデバイスを使用して、アプリケーションと情報の保護、集中管理、および編集と、アプリケーションや情報へのアクセスを行えるようになります。

また、Windows Server 2012 Essentials は、小規模企業のお客様が、社内でアプリケーションを実行できるよう最適化されているだけでなく、ますます増加しているクラウドベースのアプリケーションやサービスや世界中の多くの企業が現在利用しているその他ソフトウェアの活用にも対応できるよう最適化されています。

- **[データ保護]** Windows Server 2012 Essentials では、Windows Server 2012 の複数の新機能の活用により、データ保護機能が大幅に強化されています。新たな記憶域スペース機能によって、異種ハード ドライブの物理記憶容量の集約、ハード ドライブの動的な追加、復元性のレベルを指定したボリュームの作成が可能です。Windows Server 2012 Essentials では、サーバー自体と、ネットワークに接続されたコンピューターを対象とした、システムの完全バックアップとベア メタル復元を実行できます。
- **[場所を選ばないアクセス]** リモート Web アクセス機能によって、インターネット接続がある場所ならどこからでも、あらゆるデバイスを使用して、アプリケーションとデータにアクセスできます。また、ファイルはオフライン アクセス用に自動的にキャッシュされ、サーバーへの接続が利用可能になったとき自動的に同期されます。Windows Server 2012 Essentials では、仮想プライベート ネットワーク (VPN) 接続を活用することで、在宅のままリモートから、コンピューターを会社の Windows Server 2012 Essentials のネットワーク 環境に参加させることができます。
- **[正常性の監視]** Windows Server 2012 Essentials は、自己の正常性の状態と、Windows 7、Windows 8、および Mac OS X バージョン 10.5 以上を実行するコンピューターの状態を監視します。正常性の状態を通じて、コンピューターのバックアップ、サーバーの記憶域、空きディスク領域不足などに関連する問題が通知されます。
- **[ワークロードの柔軟性]** Windows Server 2012 Essentials は、社内で実行するアプリケーションやサービスと、クラウドで実行するアプリケーションやサービスを柔軟に選択できるよう設計されています。Windows Server 2012 Essentials では、Exchange Server を社内で実行することを選択した場合も、ホスト型 Exchange サービスに加入することを選択した場合も、または Office 365 サブスクリプションを利用することを選択した場合も、同じ統合管理が得られます。

- **[拡張性]** Windows Server 2012 Essentials は、Windows Small Business Server 2011 Essentials の拡張性モデルに基づいて構築されているため、他のソフトウェア ベンダーがコア製品に機能を追加したり、新しい Web サービス API セットを追加したりすることができます。また、Windows Server 2012 Essentials は、Windows Small Business Server 2011 Essentials 用に作成された既存のソフトウェア開発キット (SDK) およびアドインとの互換性を維持しています。

ダッシュボードとスタート パッド

ダッシュボード

ダッシュボードは、Windows Server 2012 Essentials の制御を行うための中心部分です。ダッシュボードからは、ネットワーク上での Windows Server 2012 Essentials の動作、アクセス可能なユーザー、格納および取得可能な情報、それらの情報の整理、保護、リモートでの利用など、Windows Server 2012 Essentials の動作を制御するのに必要なすべての管理タスクおよび保守タスクを実行することができます。適切なアクセス許可を持つユーザーは、ダッシュボード自体もリモートからアクセスすることができます。

ダッシュボードはタスクごとに整理されており、さまざまな処理が複数のタブに表示されています。ダッシュボードの各タブには特定の作業項目が含まれており、優れた管理性を提供しながら、変更項目の理解と実行が簡素化されています。

- **[ホーム]** タブには、利用開始に必要なセットアップ、電子メール サービスの統合、Windows Server 2012 Essentials の状態表示、アドインの管理へのショートカットがあります。

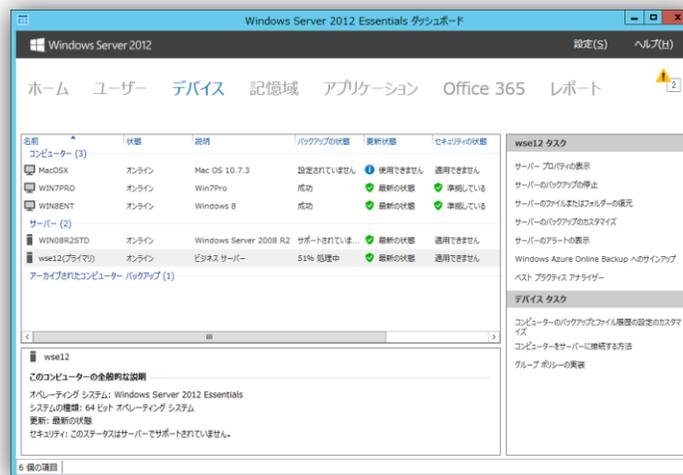


- **[ユーザー]** タブには、最大 25 ユーザーのアカウントを追加することができます。サーバーフォルダーへのアクセス許可を変更したり、各ユーザーに許可するリモート アクセスのレベルを設

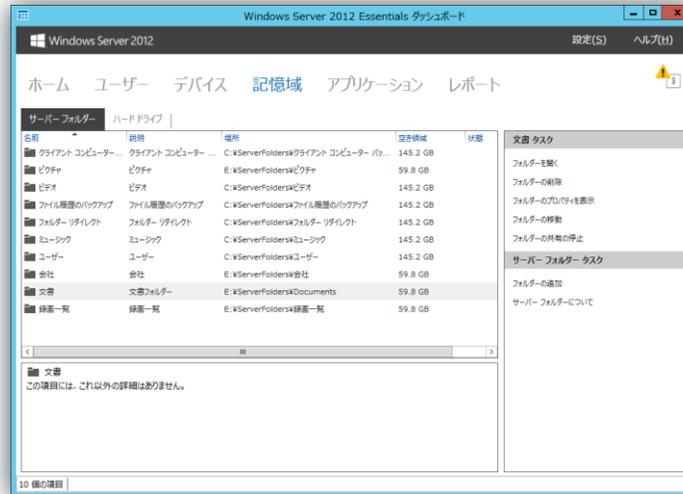
定したりすることができます。また、Office 365 などの電子メール サービスを統合すると、各ユーザーの電子メールアドレスのマッピングや削除を行うことができます。



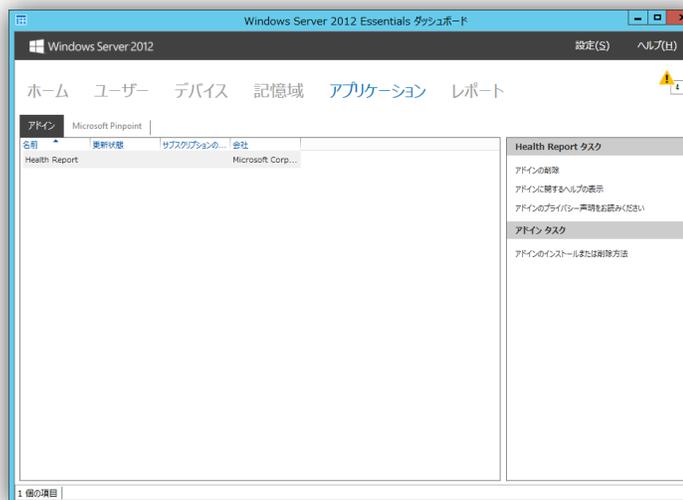
- [デバイス] タブでは、Windows Server 2012 Essentials に接続されているすべてのコンピューターの正常性やバックアップ、セキュリティの状態を確認することができます。Windows Server 2012 Essentials やコンピューターのバックアップの設定だけでなく、バックアップの自動取得、ファイルやディスクの復元も実行することができます。コンピューターの復元時に使用する回復キーの作成もできます。



- [記憶域] タブでは、Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダーや物理 ハードドライブを管理できます。[サーバーフォルダー] サブタブでは、サーバーフォルダーの作成、変更、削除、場所の移動を行います。[ハードドライブ] サブタブでは、バックアップ ドライブとデータドライブの表示、追加、削除を行います。



- [アプリケーション] タブでは、Microsoft や他のサード パーティによって開発された、Windows Server 2012 Essentials の機能を拡張するためのソフトウェア コンポーネントの表示、管理、削除を行います。

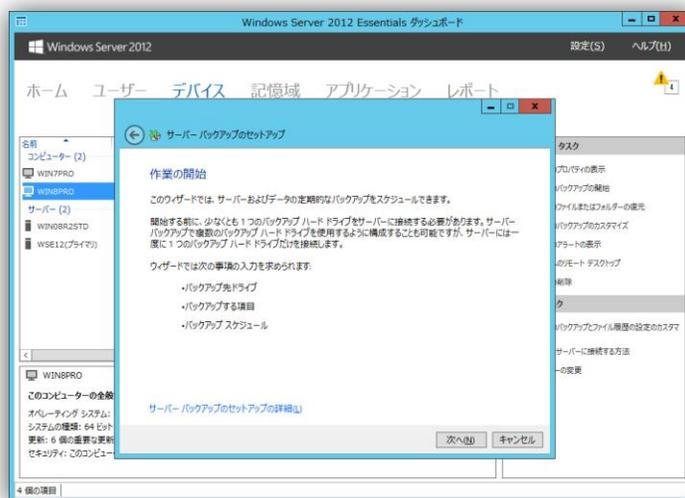


- ダッシュボードには、以下のリンクも表示されます。
 - **[アラート]:** アラート センターが開かれ、現在発生しているエラー、警告、または情報の各メッセージを表示します。
 - **[設定]:** サーバーの日付と時刻、Windows Update のプロパティ、AnywhereAccess を構成するのに使用されます。
 - **[ヘルプ]:** 製品情報が表示されます。また、ダッシュボードのタブを管理することができます。

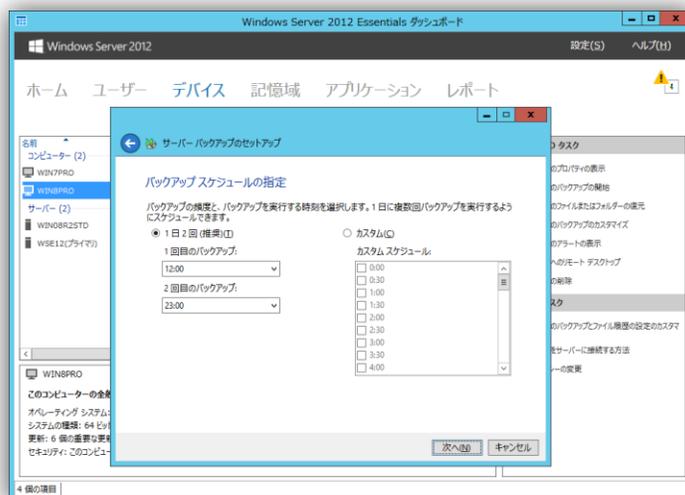
Windows Server 2012 Essentials やコンピューターのバックアップと復元

Windows Server 2012 Essentials における バックアップ

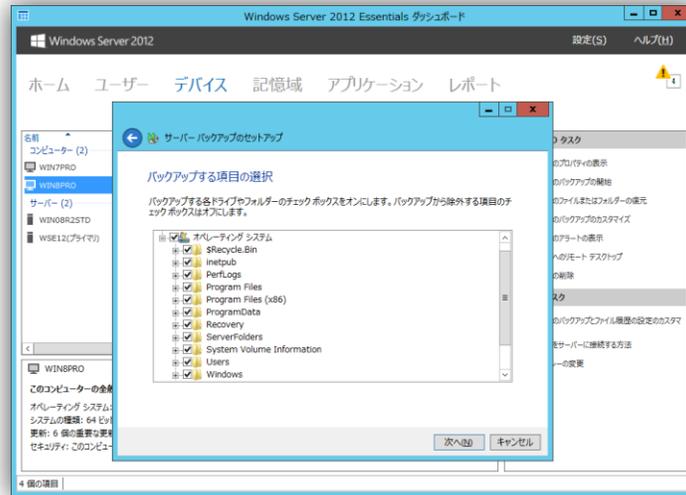
Windows Server 2012 Essentials では、バックアップの構成ウィザードを使用して、Windows Server 2012 Essentials およびそのサーバーフォルダーを外部ドライブにバックアップします。火災や盗難などの不測の事態に備えて、主要なコンピューターのデータを別の場所に保管しておくことができます。意図しないデータの消失が発生した場合は、バックアップからファイルを簡単に復元することができます。



バックアップの構成ウィザードの実行時には、バックアップのスケジュールの設定など、個々のニーズに合致するようにバックアップをカスタマイズするためのいくつかのオプションが利用できます。

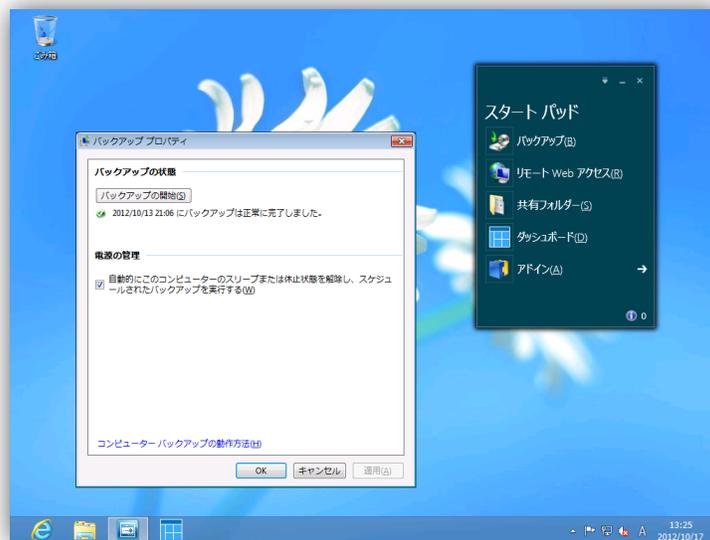


システム バックアップを実行すると、ハードドライブに障害が発生した場合に "ベアメタル" 復元が可能になります。また、バックアップに含めるサーバーフォルダーを選択することもできます。

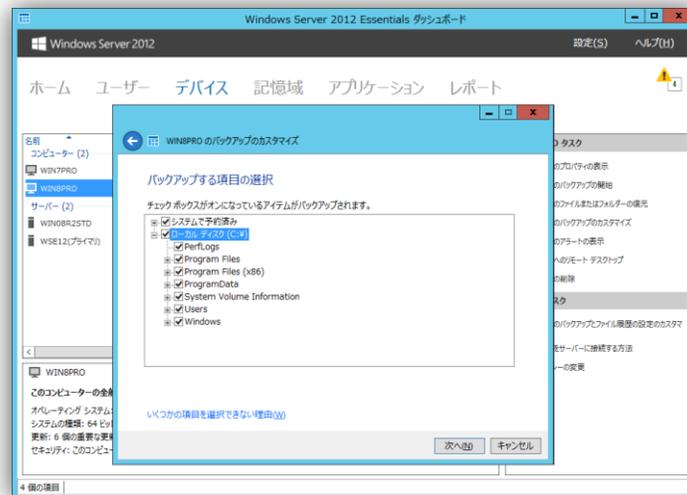


Windows Server 2012 Essentials におけるコンピューター バックアップ

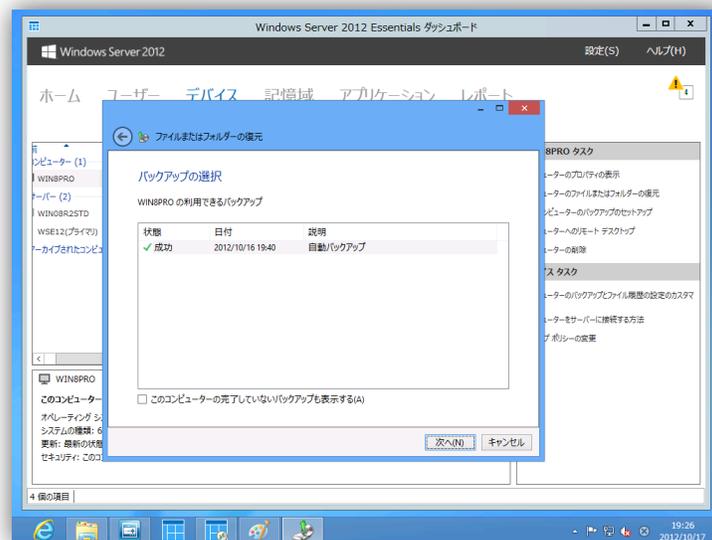
Windows Server 2012 Essentials の コネクト ソフトウェアをコンピューターにインストールすると、コンピューターのバックアップが自動的に構成されます。これにより Windows Server 2012 Essentials に接続しているすべてのコンピューターでバックアップが日単位で実行されます。



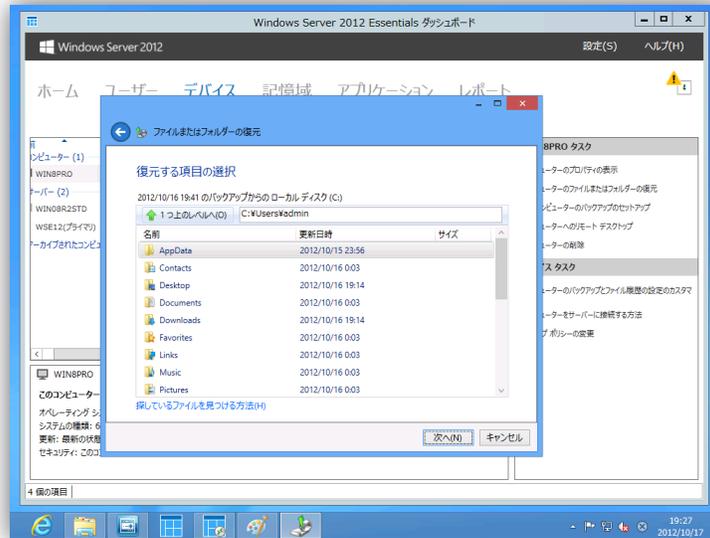
日々の自動バックアップに加えて、コンピューターのスタート パッドを使用して手動でバックアップを開始できます。ダッシュボードを使用して各コンピューターのバックアップをカスタマイズすることもできます。



コンピューターのデータを復元するには、コンピューターのスタート パッドからダッシュボードを起動し、[デバイス] タブから復元ウィザードを開始します。利用可能なすべてのバックアップの一覧から、対象のコンピューターに復元するデータを選択します。

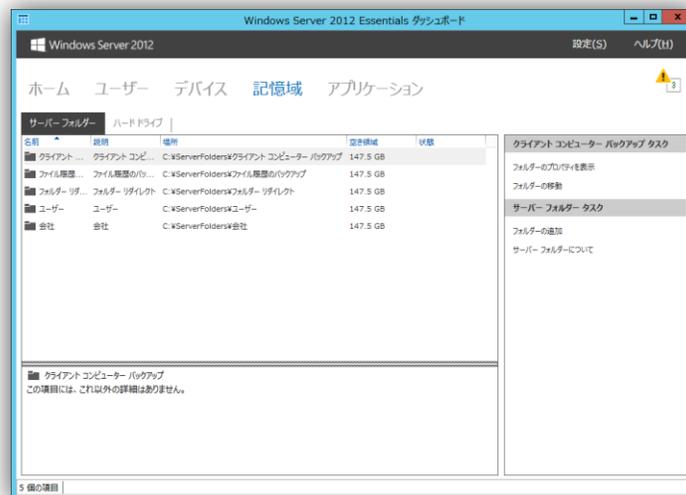


バックアップ セットを選択したら、ディレクトリ ツリーを参照して、復元するファイルおよびフォルダーを選択します。元の場所への復元、または別の場所への復元など、オプションが提供されます。

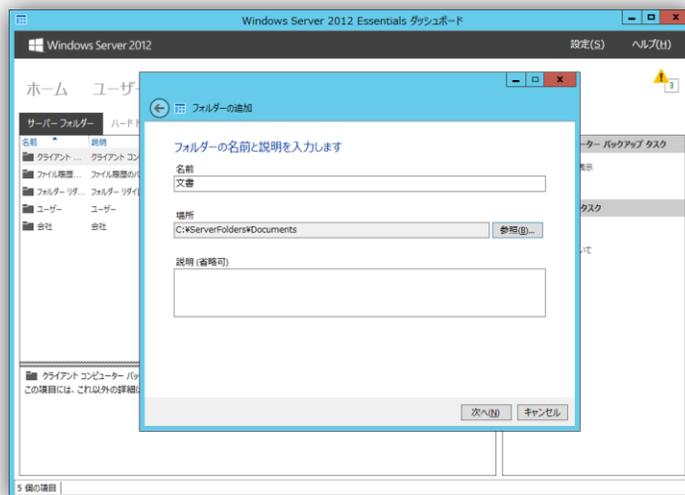


サーバーフォルダー(共有フォルダー)とハードドライブ

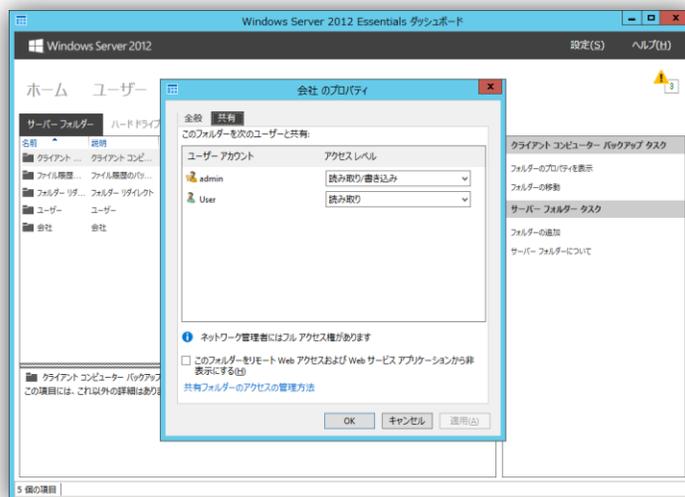
Windows Server 2012 Essentials では、会社、ユーザー、フォルダーリダイレクト、ファイル履歴のバックアップ、コンピューターバックアップ というサーバーフォルダーがあらかじめ構成されています。ダッシュボードから、これらのフォルダーに対するユーザーのアクセス許可を指定したり、新しいサーバーフォルダーを作成したりすることができます。新しいユーザーを追加すると、ユーザーフォルダーの下にサブディレクトリが自動的に作成されます。



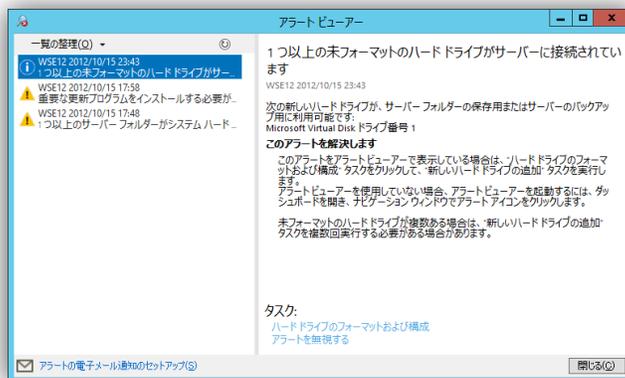
データの整理や共有のために、独自のサーバーフォルダーを簡単に作成することができます。



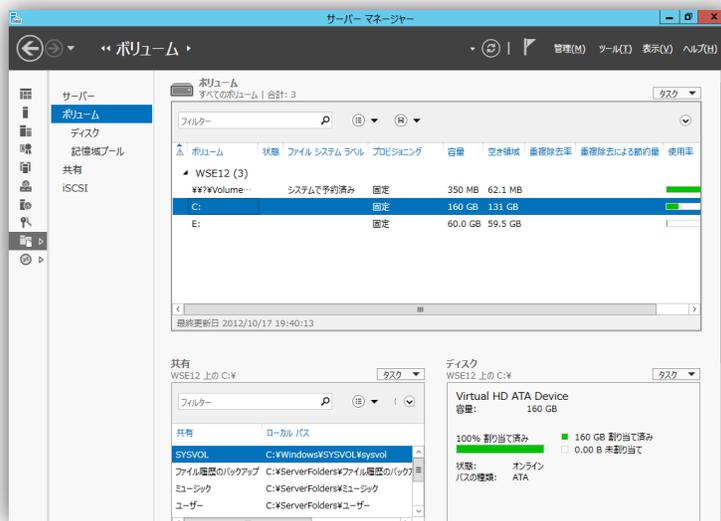
また、サーバーフォルダーに対してユーザーごとにアクセス許可を割り当てることができます。フォルダー内のデータに関して、アクセス不可、読み取り専用アクセス、読み取りと書き込みが可能なフルアクセスを設定できます。サーバーフォルダーをリモート Web アクセスから非表示とする設定もできます。



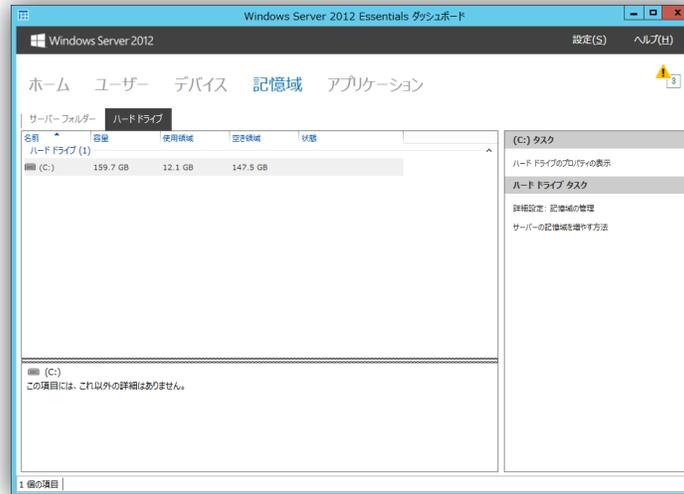
Windows Server 2012 Essentials はストレージ容量を簡単に増やすことができます。内部ハードドライブ、外部ハードドライブ (USB 2.0、FireWire、eSATA などを利用) のいずれも使用できます。サーバーが未フォーマットのハードディスクを検知すると、ダッシュボードに通知が表示されます。この通知に表示される [ハードドライブのフォーマットおよび構成] リンクを使用して、迅速かつ容易にディスクの使用を準備することができます。



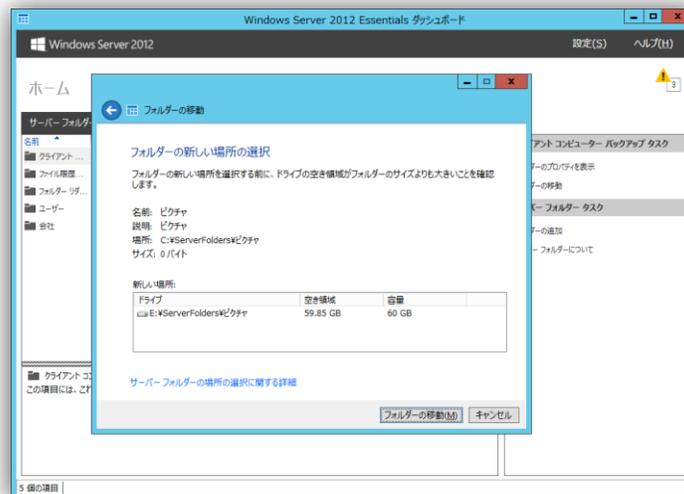
ボリュームのミラーリングや RAID-5 ボリュームなど、データの可用性を高めるためのリアルタイムの冗長性を提供する高度なストレージ構成に関しては、サーバー マネージャー の [ファイルサービスと記憶域サービス] 機能を利用することができます。



ダッシュボードの [ハードドライブ] タブには、Windows Server 2012 Essentials のバックアップを格納するドライブや、サーバーフォルダーで使用されるドライブなど、Windows Server 2012 Essentials で利用可能なすべてのドライブが表示されます。

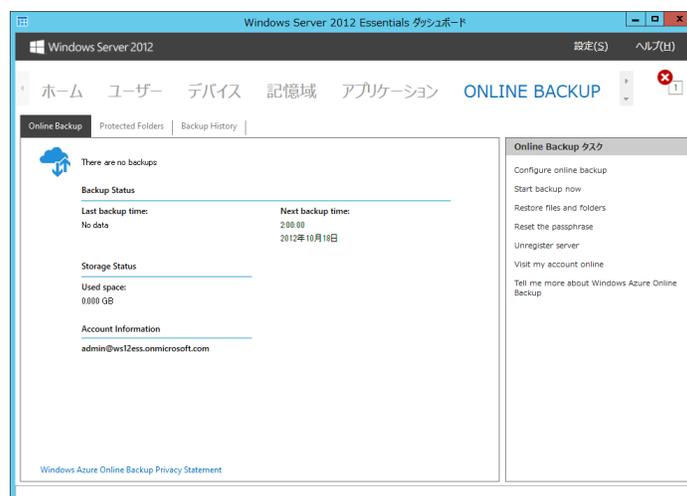


Windows Server 2012 Essentials に新しいハード ドライブを追加した後、フォルダーの移動ウィザードを使用してデータをサーバーフォルダーに移動することができます。これにより、増えた容量を迅速かつ容易に利用することができます。



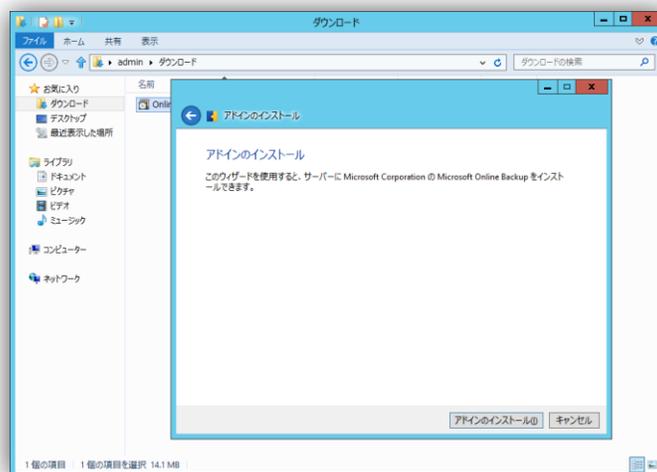
Windows Azure Online Backup

Windows Azure Online Backup はアドインとしてダッシュボードに組み込むことができます。このアドインによってクラウド上へサーバーのバックアップを保存することができます。不足の事態により、バックアップ データの消失があっても速やかにクラウド上のバックアップから重要な情報を復元することができます。

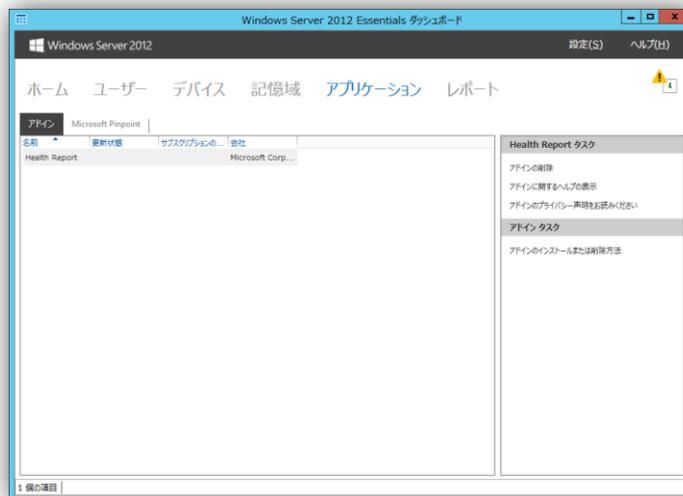


アドインのインストールと管理

アドインとは、Microsoft や他のサード パーティによって開発された、Windows Server 2012 Essentials の機能を拡張するためのソフトウェア コンポーネントです。アドインはサーバー アドイン パッケージ ファイルとして提供されます。そのパッケージを実行することによってインストール ウィザードが開始され、簡単にインストールできます。



アドインはダッシュボードを使用して管理します。ダッシュボードで参照、変更、削除を行うことができます。また、各アドインが提供する機能に応じて異なるオプションが用意されます。



AnywhereAccess

Windows Server 2012 Essentials は、他のオフィスまたは、遠隔地からインターネットが利用できる環境さえあれば、VPN 接続やリモート Web アクセスを使用してサーバーフォルダーへのアクセス、業務アプリケーションを実行できる環境を提供します。

リモート Web アクセス

Windows Server 2012 Essentials は、リモート Web アクセスを通じてリモート アクセス機能を提供します。リモート Web アクセスは動的に更新される サイトであり、暗号化接続を使用して、小規模ビジネス ネットワークに対しシンプルでセキュリティ保護され、統合化された単一のエントリ ポイントを提供します。また、リモート Web アクセス の Web サイトはデスクトップだけでなくタブレット表示に対応しています。

情報: リモート Web アクセス機能を使用するには、ブロードバンド プロバイダーが提供する追加のサービスが必要になる場合があります。ブロードバンド プロバイダーが提供するサービス、およびサービス契約に関するご質問は、ご契約しているブロードバンド プロバイダーにお問い合わせください。



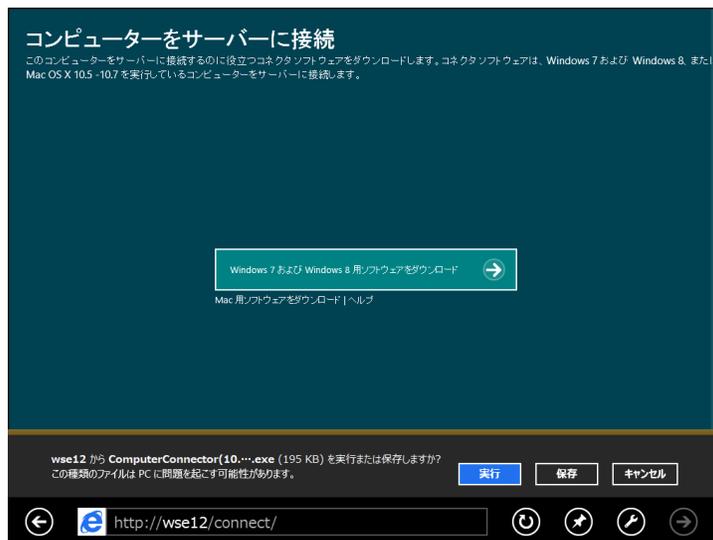
Windows Server 2012 Essentials のリモート Web アクセスでは、ユーザーはブラウザを使って、サーバー上に格納されている文書に簡単にアクセスしたり、管理者によって追加されるカスタマイズされたリンクにアクセスしたり、パスワードを変更したりすることができます。また、自分のコンピューターに接続して、その前に座っているかのように使用することができます。また、管理者は Windows Server 2012 Essentials 自体に接続して、リモートで管理タスクを実行することができます。



コンピューターの追加

コンピューターが Windows Server 2012 Essentials 環境に完全に参加するには、Windows Server 2012 Essentials に接続する必要があります。これは、サーバーの [コンピューターをサーバーに接続]

Web ページにアクセスし、ウィザードを開始することによって実行されます。このウィザードは、Windows Server 2012 Essentials のネットワークにコンピューターを追加します。また、ビジネス エディションの Windows コンピューターの場合は、オプションでローカルのユーザー プロファイルを移行することもできます。また、リモート Web アクセス経由で在宅など社外から Windows Server 2012 Essentials ネットワークにコンピューターを追加することもできます。

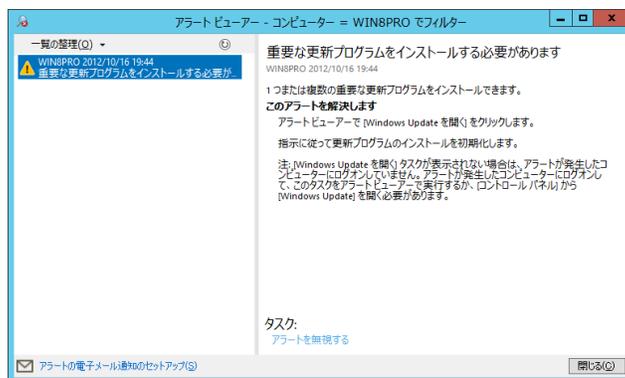


コンピューターが Windows Server 2012 Essentials のネットワークに参加すると、Windows Server 2012 Essentials へ日次バックアップが自動的に構成され、スタート パッドがインストールされます。スタート パッドを利用することにより、サーバーフォルダーへのアクセス、手動バックアップの開始、リモート Web アクセス ページの接続、ダッシュボードの起動を簡単に行うことができます。また、VPN 接続の構成も構成されますので、社外から Windows Server 2012 Essentials 上の文書などに直接アクセスすることができます。

正常性とセキュリティの監視

Windows Server 2012 Essentials は、ネットワーク上のコンピューターや Windows Server 2012 Essentials の事前対処型のメンテナンスを推進することによって、企業の生産性を高めるのに寄与します。Windows Server 2012 Essentials は、サーバーに接続されているすべてのコンピューターを常に監視し、重要な更新プログラム、マルウェア対策保護の欠如、コンピューターのウイルス定義の期限切れ、および対処が必要なその他の重要な問題など、正常性に関する問題が生じた場合に管理者に通知します。これらは、ネットワーク環境の管理にかかるコストの削減に役立ちます。

Windows Server 2012 Essentials のダッシュボードでは、サーバーおよび接続されているコンピューターの問題が警告ビューアーにまとめられ、重大なアラート、警告、情報の各メッセージが表示されます。また、情報を示す説明と、問題の対処が記載されている場所へのリンクによって、管理者は適切なガイダンスが得られます。



それぞれのコンピューター固有のアラートは [デバイス] タブに一覧表示されます。コンピューターでは、コンピューターに影響を与える問題がスタート パッドに通知されます。多くの場合、この通知によって、管理者の支援を必要とせずにユーザー自身が対処作業を行うことができます。



システム要件

Windows Server 2012 Essentials のシステム要件は以下の通りです。

項目	最小構成	推奨構成
プロセッサ	1.4 GHz 64 ビットシングルコアプロセッサ 1.3 GHz 64 ビットマルチコアプロセッサ	3.1 GHz 以上 64 ビットマルチコアプロセッサ
メモリ	2 GB	8 GB
ハードディスク	160 GB 以上のハードディスク(システム領域 60 GB を含む)	
ネットワーク	10/100/1000baseT ネットワーク アダプター	
インターネット	いくつかの機能を利用する場合、インターネット接続が必要となります また、Microsoft アカウント	
サポートされる クライアント	Windows 8, Windows 7, Mac OS X 10.5 以上	
ルーター	IPv4 NAT 機能を有するルーター	
サポートされる ネットワーク環境	ルーターとは、LAN ケーブルで接続されている必要があります UPnP 対応のルーター(必須ではありません) 192.168.x.x サブネット(必須ではありません)	
その他	解像度 800 x 600(最小)または 1024 x 768(推奨)以上のモニター キーボードとマウス DVD-ROM ドライブ	

Windows Server 2012 Essentials のセットアップ

ここでは、インストール DVD メディアを使い、Windows Server 2012 Essentials をインストールする方法について紹介します。

ステップ1: インストール

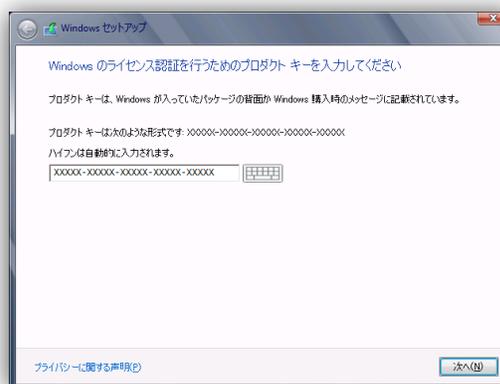
1. インストール DVD メディアからコンピューターを起動し、Windows セットアップウィザードが起動します。
[インストールする言語]、[時刻と通貨の形式]、[キーボードまたは入力方式]、[キーボードの種類]を確認し、[次へ]をクリックします。



2. [今すぐインストール (I)] をクリックします。



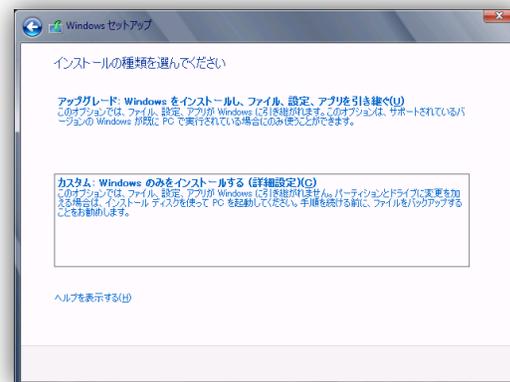
3. プロダクトキーを入力し、[次へ] をクリックします。



4. マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項を確認し、[同意します(A)]ダイアログボックスにチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



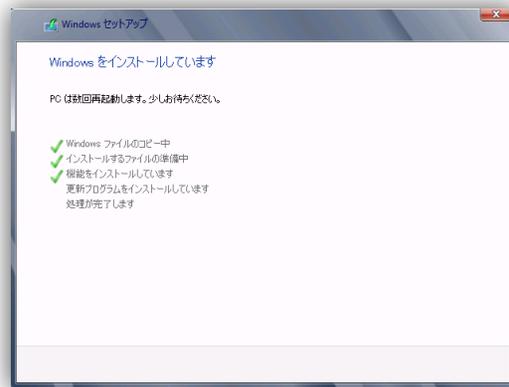
5. [カスタム: Windows のみをインストールする(詳細設定)(C)]をクリックします。



6. インストール先のディスクを選択し、[次へ]をクリックします。
[ドライブオプション(詳細設定)(A)]を選択すると、インストールするディスクについてカスタマイズすることができます。



7. インストールが開始され、途中何度か再起動します。



8. 表示されているシステム日付と時刻を確認し、[次へ]をクリックします。システム日付と時刻を修正する場合は、[システム日付および時刻の設定の変更(C)]をクリックします。



9. [クリーンインストール(I)]を選択します。



10. [会社名(C)]、[内部ドメイン名(I)]、[サーバー名(S)]を入力し、[次へ]をクリックします。

Windows Server 2012 Essentials のセットアップ

サーバーをカスタマイズします

この情報はネットワーク上でサーバーを識別するのに使用します。

会社名(C):
CONTOSO

内部ドメイン名(I):
CONTOSO
(たとえば、Contoso Co. の場合は CONTOSO という名前になります)
内部ドメイン名は少なくともネットワークを識別し、ユーザーがコンピュータにログインする際はこのドメイン名が表示されます。内部ドメイン名は、インターネットドメイン名とは異なり、ネットワークの外からは見えません。

サーバー名(S):
WSE12
(たとえば、Contoso Co. の場合は ContosoServer という名前になります)
サーバー名は、ネットワークに存在するサーバーを一貫して識別します。

▲ サーバーのセットアップ後は、これらの設定は変更できません。
サーバーをカスタマイズする前に知っておくこと (W)

戻る(B) 次へ(N)

11. [管理者のアカウント名(A)]と[パスワード(P)]を入力し、[次へ]をクリックします。

Windows Server 2012 Essentials のセットアップ

管理者アカウント情報を入力してください (アカウント 1/2)

管理者アカウントを使用して、サーバーにログインして管理します。ネットワークを保護するため、管理者アカウントを使用するのは、管理者特権が必要となる管理タスクを実行しなければならない場合だけしてください。

管理者のアカウント名(A):
admin

パスワード(P):
●●●●●●●●

パスワードの確認(C):
●●●●●●●●

この情報の選択方法 (H)

戻る(B) 次へ(N)

12. [標準ユーザーのアカウント名(S)]と[パスワード(P)]を入力し、[次へ]をクリックします。

Windows Server 2012 Essentials のセットアップ

標準のユーザー アカウント情報を入力してください (アカウント 2/2)

ネットワークを保護するため、共有フォルダーへのアクセスなどの日常的な標準タスクを実行する場合は、標準のユーザー アカウントを使用してネットワークにログインしてください。管理者アカウントを使用するのは、管理者特権が必要となる管理タスクを実行しなければならない場合だけしてください。

標準のユーザー アカウント名(S):
User

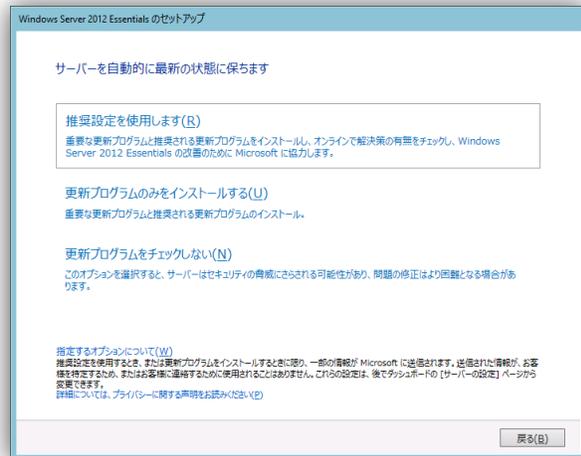
パスワード(P):
●●●●●●●●

パスワードの確認(C):
●●●●●●●●

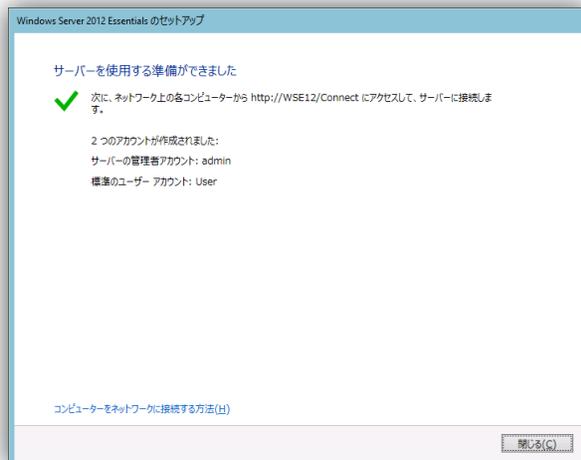
この情報の選択方法 (H)

戻る(B) 次へ(N)

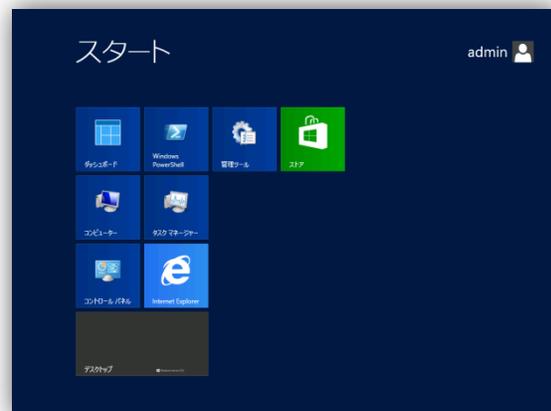
13. サーバーをセキュアな状態に保つために、[推奨設定を使用します(R)]を選択します。



14. インストールが完了しました。
[閉じる]をクリックします。



15. インストールが完了するとスタート画面が表示されます。



ステップ2: セットアップ

インストールに続いて Windows Server 2012 Essentials をセットアップする手順について紹介します。初めてサーバーを構成する場合や変更する場合に利用します。セットアップは、ダッシュボードのホームタブにあるセットアップタスクから実行します。



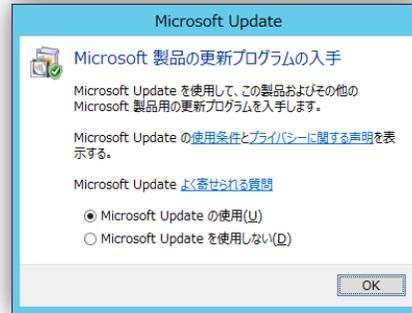
その他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手 (Windows Update 更新)

このタスクを実行すると Windows Server 2012 Essentials の Windows Update が有効となり、更新プログラムが自動インストールされるように設定されます。更新プログラムのインストールもここから行います。

1. [その他の Microsoft 製品の更新プログラムを入手] を選択します。[クリックして Microsoft Update をアクティブにする] をクリックします。



- [OK]をクリックして、Microsoft 製品の更新プログラム の入手できるようにします。



サーバーバックアップのセットアップ

このタスクでは、Windows Server 2012 Essentials のバックアップの設定をします。このタスクを実行する前に新しいハードディスクを追加しておく必要があります。

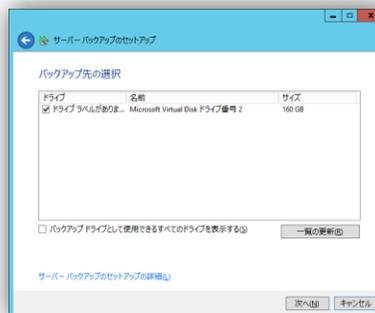
- [サーバーバックアップのセットアップ]を選択します。[クリックしてサーバーバックアップをセットアップする]をクリックします。



- [次へ]をクリックします。



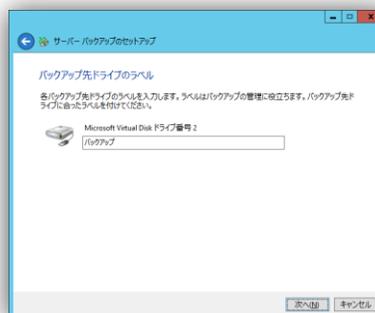
3. バックアップ先ディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



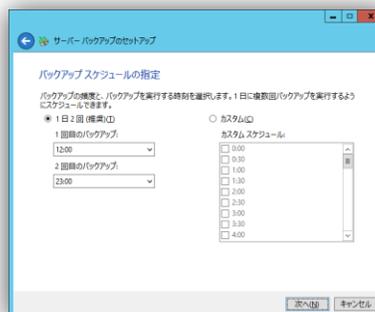
4. 選択されたディスクが再フォーマットされる警告が表示されます。



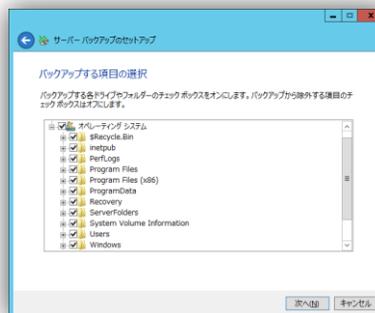
5. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



6. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。既定では、12:00 と 23:00 の 1 日 2 回のバックアップが取得されるように選択されています。



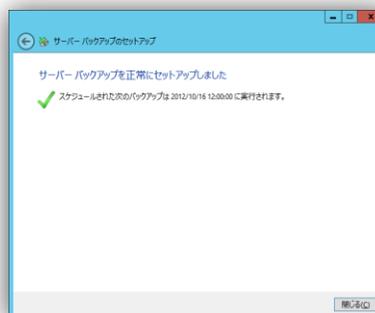
7. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



8. バックアップの設定項目一覧が表示されま
す。設定内容が正しければ、[設定の適用]
をクリックします。修正が必要な場合は、
左上の戻るボタンをクリックし、修正する項
目のページに戻ります。



9. サーバーバックアップの設定が完了しまし
た。[閉じる]をクリックします。



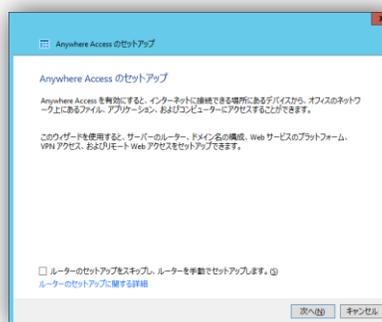
AnywhereAccess のセットアップ

このタスクでは、Windows Server 2012 Essentials の AnywhereAccess の設定をします。AnywhereAccess では、ドメイン名、ルーター、Web サイトの設定を自動的に行います。

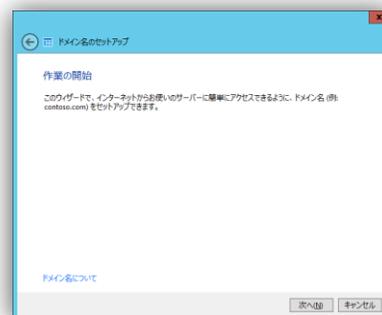
1. [AnywhereAccess のセットアップ]を選択します。[クリックして AnywhereAccess を構成する]をクリックします。



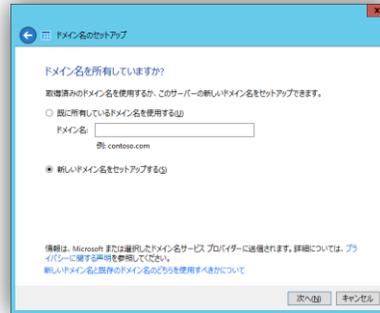
2. [次へ]をクリックします。ルーターのセットアップを手動で構成するには、[ルーターのセットアップをスキップし、ルーターを手動でセットアップします]のダイアログボックスにチェックを入れます。



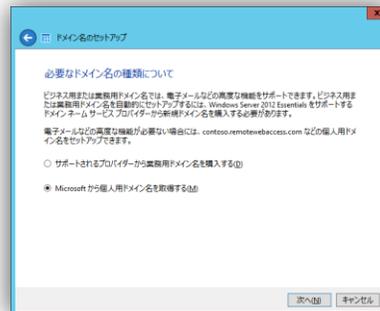
3. [次へ]をクリックします。



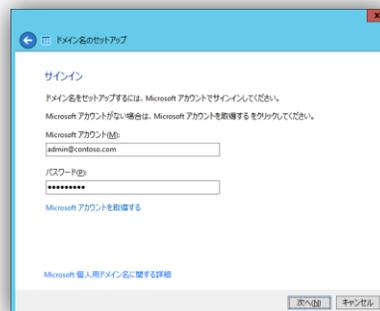
4. [新しいドメイン名をセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。既にドメイン名を取得している場合は、ドメイン名を入力します。



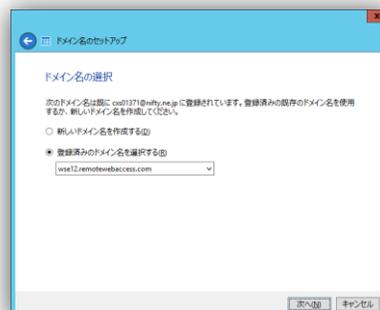
5. Microsoft から提供される無料のドメイン名を使用するために、[Microsoft から個人用ドメイン名を取得する]を選択し、[次へ]をクリックします。



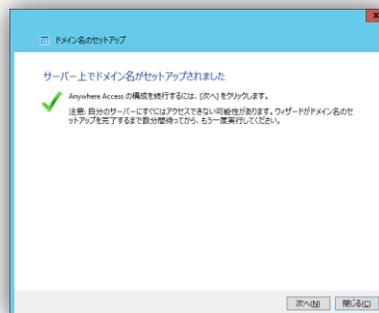
6. Microsoft アカウント とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



7. 登録済みのドメイン名を選択し、[次へ]をクリックします。



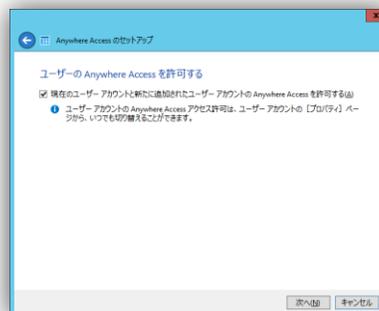
8. [次へ]をクリックします。



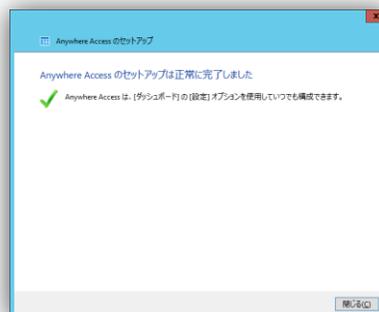
9. 仮想プライベートネットワーク、リモート Web アクセス を選択し、[次へ]をクリックします。



10. [次へ]をクリックします。



11. AnywhereAccess のセットアップが完了しました。[閉じる]をクリックします。



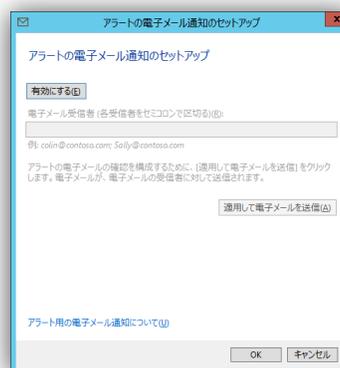
電子メールアラート通知

Windows Server 2012 Essentials に問題が発生した場合に電子メールでアラートを送信するようにサーバーを構成します。この通知によってサーバーにログインしていなくても、サーバーの状態を把握することができます。

1. [電子メールアラート通知のセットアップ]を選択します。[クリックして電子メールアラート通知をセットアップする]をクリックします。



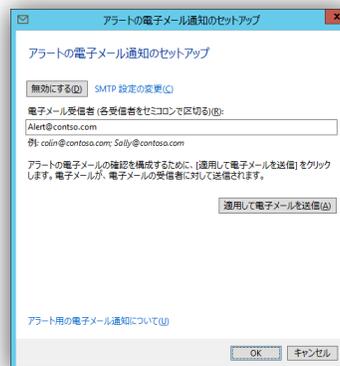
2. [有効にする]をクリックします。



3. 送信元メールアドレス、SMTP サーバー、SMTP ポートを入力し、[OK]をクリックします。必要に応じてセキュリティや認証のオプションを設定します。



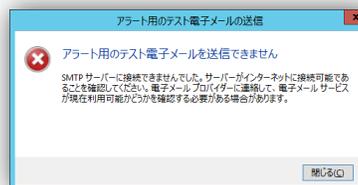
4. 受信するメールアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
[適用して電子メールを送信]をクリックするとテストメールが送信されます。



5. テストメールの送信が成功すると右の図のダイアログが表示されます。



6. テスト送信に失敗すると、右図のダイアログが表示されます。手順3. に戻り、正しい設定に修正します。



メディアサーバーの設定

メディアサーバーをセットアップすると、オーディオ、ビデオ、画像ファイルを他のユーザーと共有することができます。Windows Media Player、リモート Web アクセスなどを使って共有メディアサーバーにアクセスすることができます。メディアサーバーを有効にするとサーバーフォルダーに、ピクチャー、ビデオ、ミュージック、録画一覧のサーバーフォルダーが追加されます。

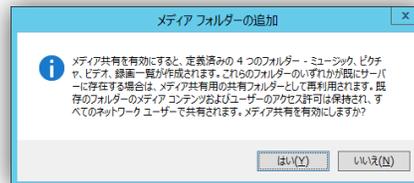
1. [メディアサーバーのセットアップ]を選択します。[クリックして、メディアサーバーをセットアップする]をクリックします。



2. [有効にする]をクリックします。



3. メディアサーバーで使用される共有フォルダーが作成されるダイアログが表示されます。



4. メディアサーバーの状態が有効になっていることを確認して、[OK]をクリックします。



サーバーの状態

Windows Server 2012 Essentials の構成状態の概要を表示します。表示される項目は、アクティブなユーザー数、サーバーフォルダー数、サーバーバックアップの状態、AnywhereAccess の状態、電子メールアラート通知の状態、管理しているコンピューターの数の 6 項目です。[ホーム]タブの[簡単な状態]をクリックするとサーバーの状態が表示されます。



電子メールサービスの連携

電子メールサービスをダッシュボードの管理コンソールに統合します。統合することができる電子メールサービスは、Microsoft Office 365 と Exchange Server の 2 つがあります。電子メールサービスの連携を行うには、ダッシュボードのホームタブにある電子メールタスクから実行します。



- [Microsoft Office 365 との統合]

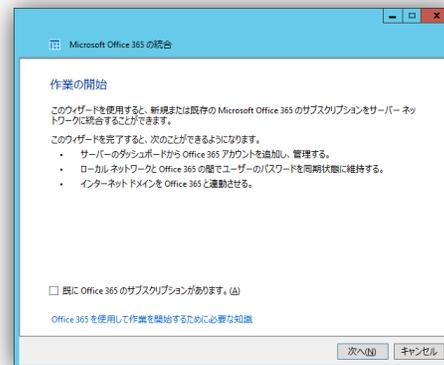
新規または既存の Microsoft Office 365 のサブスクリプションを Windows ダッシュボードに統合して、電子メールを管理することができます。

1. [電子メール]タスクの[Microsoft Office 365 との統合]タスクを選択し、[Microsoft Office 365 統合のセットアップ]をクリックします。

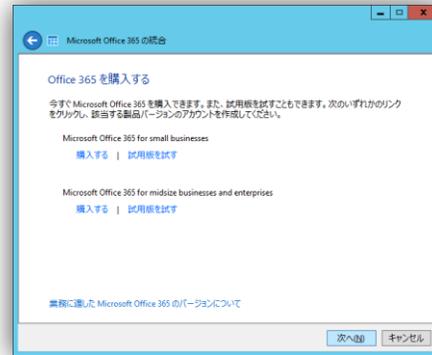


2. [次へ]をクリックします。

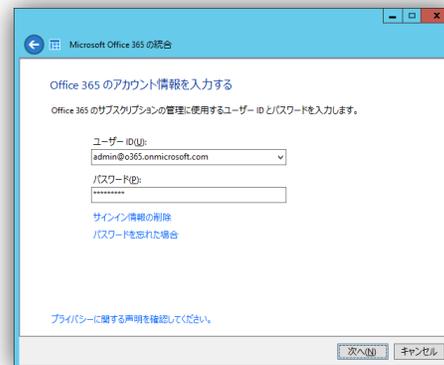
既に Office 365 のサブスクリプションがある場合は、ダイアログボックスをチェックします。



- Office 365 を[購入する]もしくは[試用版を試す]をクリックします。



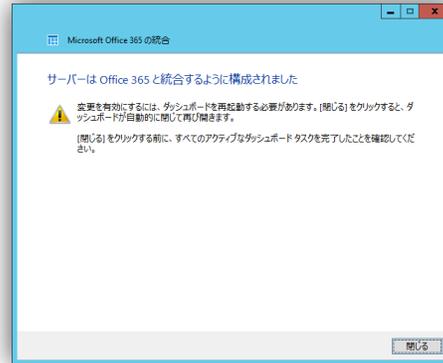
- Office 365 の管理者のユーザーID とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



- 強力なパスワードポリシーが適用されず。チェックボックスを選択し、[次へ]をクリックします。



6. [閉じる]をクリックします。



7. ダッシュボードに Office 365 のタブが表示されます。

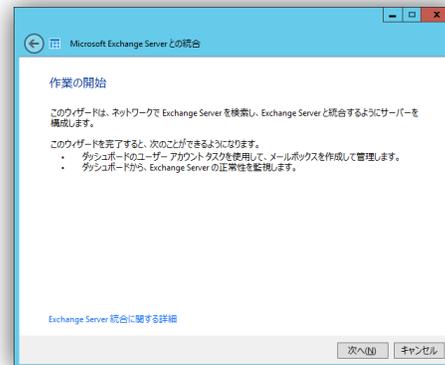


- [Exchange Server との統合]
オンプレミスの Exchange Server に接続して、電子メールを管理することができます。

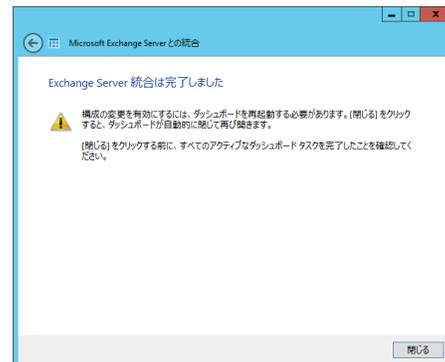
1. [Exchange Server の統合]を選択し、
[Exchange Server 統合をセットアップする]
をクリックします。



2. [次へ]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。

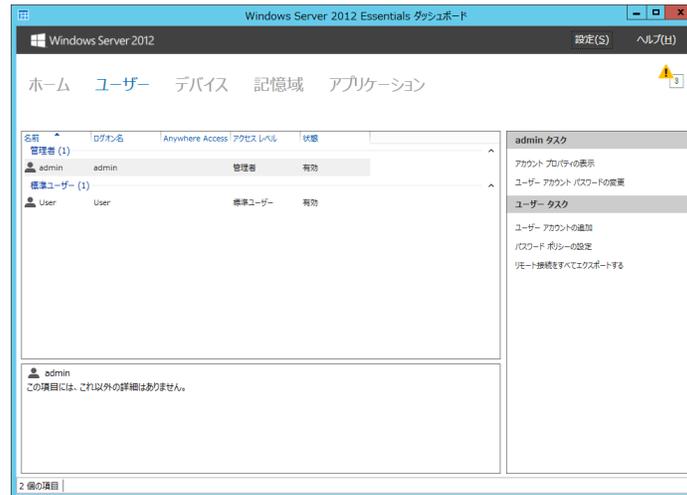


4. ダッシュボードに電子メールの欄が表示されていることを確認します。



Windows Server 2012 Essentials のユーザー管理

ここでは、Windows Server 2012 Essentials でユーザー管理について紹介します。ユーザーの追加、削除、無効、メールアドレスの割り当てなどユーザー管理を実行するには、ダッシュボードのユーザータブから行います。



アカウントの新規作成(管理者)

Windows Server 2012 Essentials の管理者を新しく作成する方法(サーバーのセットアップ)です。管理者は、ダッシュボードを使用して Windows Server 2012 Essentials を管理することができます。

1. [ユーザーアカウントの追加]を選択し、[クリックしてユーザーアカウントを追加する]をクリックします。



- 必要事項を入力します。アクセスレベルは [管理者] を選択し、[次へ] をクリックします。

新しいユーザーアカウントの名前とパスワードの入力

名前: _____ 種類: _____

ユーザーアカウント名: [SrvAdmin] 種類: _____

パスワード: _____ パスワードの確認: _____

✓ パスワードが一致しています
✓ パスワードは7文字以上である必要があります
✓ パスワードは複雑さの要件を満たす必要があります (詳細)

パスワードポリシーの変更

アクセスレベル: [管理者]

[次へ] [キャンセル]

- 電子メールサービスに Exchange Server を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要事項を入力し、[次へ] をクリックします。

電子メールアカウントの作成

電子メールアドレス: [SrvAdmin] @SRV.local

☑ メールボックスクォータを選択する (既定)

最大メールボックスサイズ (GB) 2.0

メールボックスクォータに関する詳細

[次へ] [キャンセル]

- 電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要事項を入力し、[次へ] をクリックします。既に Office 365 アカウントがある場合は、アカウントを割り当てることもできます。

Office 365 アカウントを割り当てる

新しい Office 365 アカウントを作成し、このユーザーアカウントに割り当て (既定)
新しい Office 365 アカウントの電子メールアドレスを入力します

[SrvAdmin] @loamicrosoft.com

既存の Office 365 アカウントをこのユーザーアカウントに割り当て (既定)

Office 365 アカウントをこのユーザーアカウントに割り当てない (既定)

これらのオプションの詳細

[次へ] [キャンセル]

- 管理者はサーバーフォルダーへのフルアクセス権が与えられます。[次へ] をクリックします。

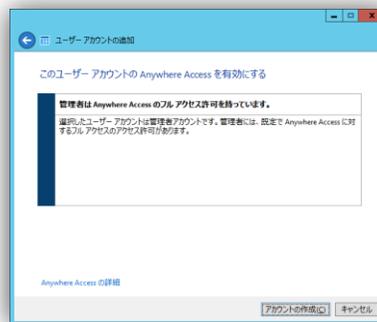
このユーザーアカウントの共有フォルダーアクセスを選択

管理者には、すべての共有フォルダーに対するフルアクセスのアクセス許可があります
通常のユーザーアカウントは管理者です。管理者には、既定ですべての共有フォルダーに対するフルアクセスのアクセス許可があります。

共有フォルダーへのアクセスレベルについて

[次へ] [キャンセル]

6. 管理者は AnywhereAccess へのアクセス権が与えられます。[次へ]をクリックします。



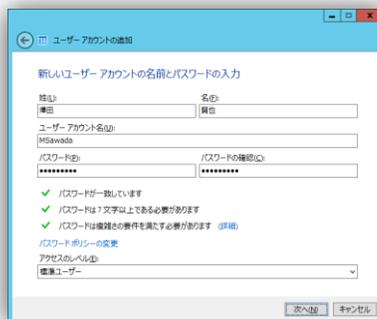
7. [閉じる]をクリックします。



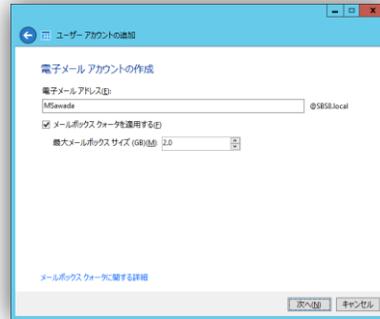
アカウントの新規作成(標準ユーザー)

Windows Server 2012 Essentials の標準ユーザーを新しく作成する方法です。

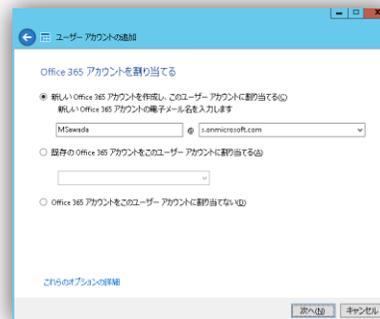
1. 必要事項を入力します。アクセスレベルは [標準ユーザー]を選択し、[次へ]をクリックします。



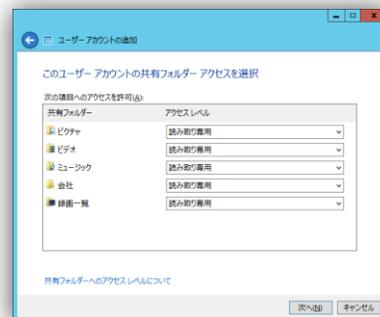
2. 電子メールサービスに Exchange Server を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要な事項を入力し、[次へ]をクリックします。



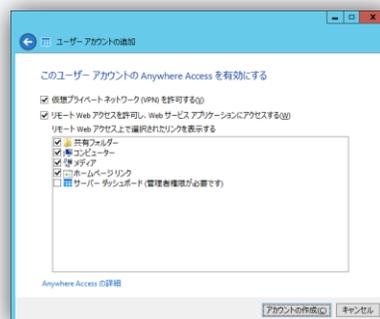
3. 電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、電子メールアドレス作成に必要な事項を入力し、[次へ]をクリックします。既に Office 365 アカウントがある場合は、アカウントを割り当てることもできます。



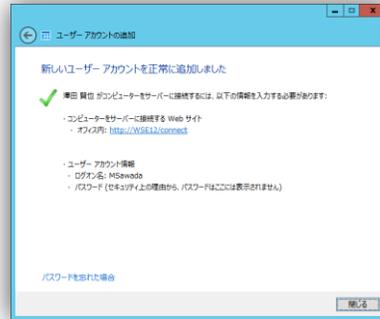
4. 標準ユーザーはサーバーフォルダーへのアクセス権に読み取りが与えられます。必要に応じて、アクセス権を変更し、[次へ]をクリックします。



5. 標準ユーザーは VPN の許可、リモート Web アクセスのアクセス権を選択し、[次へ]をクリックします。



6. [閉じる]をクリックします。

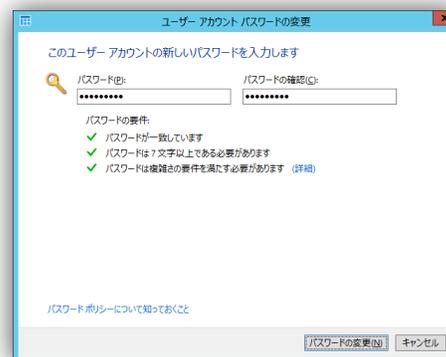


パスワードの変更

Windows Server 2012 Essentials で、ユーザーアカウントのパスワード変更する方法です。

1. パスワードを変更したいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザーアカウント パスワードの変更]をクリックします。

新しいパスワードを入力して、[パスワードの変更]をクリックします。



2. [OK]をクリックします。



アカウントの有効と無効

Windows Server 2012 Essentials で、ユーザーアカウントを無効にする方法です。同様の操作でアカウントを有効にすることができます。

1. アカウントを無効にしたいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザーアカウントを無効にする]をクリックします。

[はい]をクリックします。



2. ユーザーリストの状態が[無効]となったことを確認します。

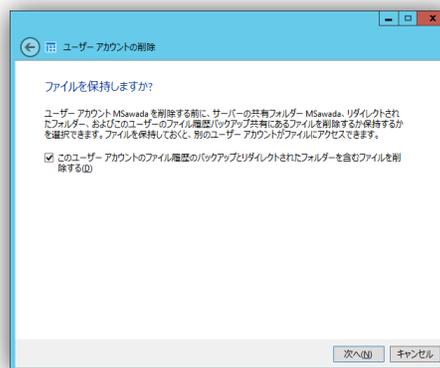


アカウントの削除

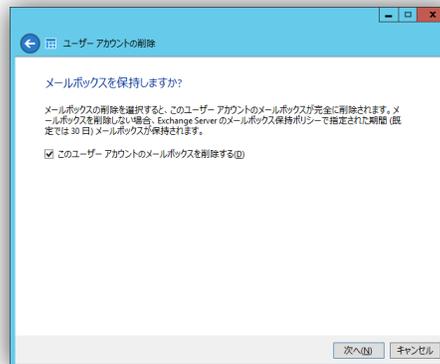
Windows Server 2012 Essentials で、ユーザーアカウントを削除する方法です。

1. 削除したいユーザーアカウントを選択し、各ユーザータスクの[ユーザーアカウントの削除]をクリックします。

チェックボックスをチェックし、[次へ]をクリックします。



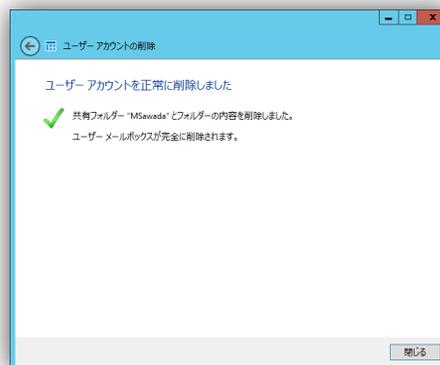
2. 電子メールサービスに Exchange Server を選択している場合は、メールボックスを削除するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。



3. [アカウントの削除]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



パスワードポリシーの設定

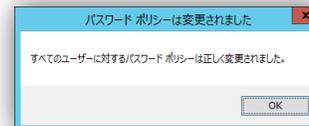
Windows Server 2012 Essentials では、ユーザーのパスワードポリシーの強度を 4 段階から選択します。

1. ユーザータスクにある[パスワードポリシーの設定]をクリックします。

パスワードポリシー設定し[ポリシーの変更]をクリックします。



2. [OK]をクリックします。



Windows Server 2012 Essentials のコンピューターの管理(デバイス管理)

ここでは、Windows Server 2012 Essentials でデバイスの管理を行うための準備を行う方法について紹介します。コンピューターの削除やバックアップの設定などのデバイスの管理は、ダッシュボードのデバイスタブで行います。

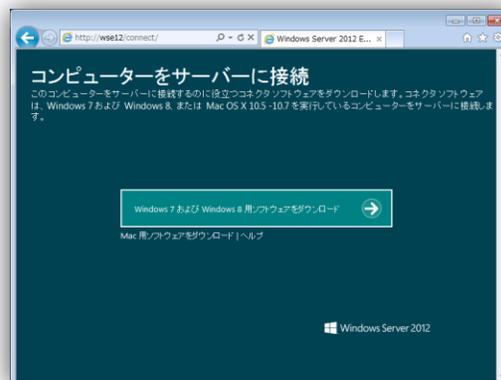


コネクタ アプリケーションのインストール

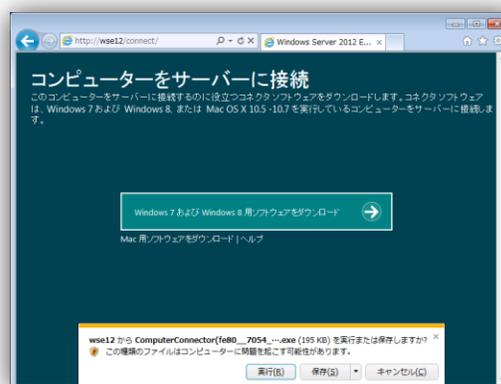
ローカルネットワークの場合 (Windows 7)

ローカルネットワーク環境で、コネクタ アプリケーションをするには、Web ブラウザーを開き、`http://<サーバー名>/connect` と入力します。これによってスタート パッドがインストールされ、サーバーフォルダーへのアクセス、バックアップの開始、リモート Web アクセス ページへの接続、ダッシュボードの表示を簡単に行うことができます。

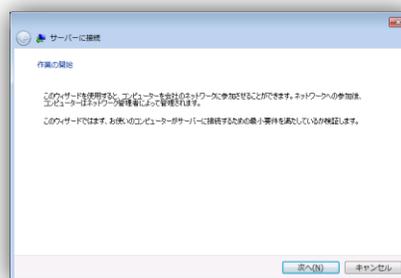
1. Web ブラウザーを開き、[http://<サーバー名>/connect]と入力します。



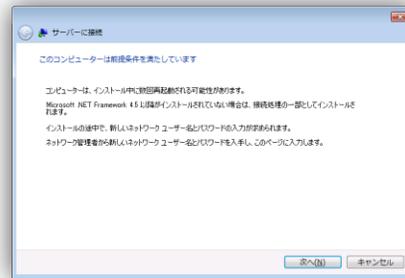
2. [実行]ボタンをクリックします。



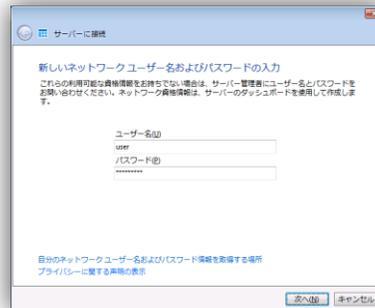
3. [次へ]をクリックします。



4. [次へ]をクリックします。



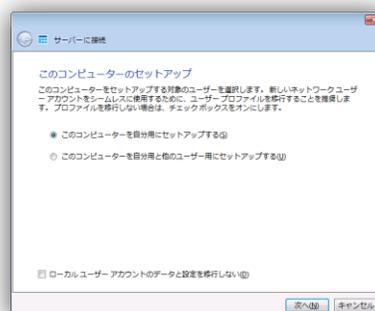
5. ユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



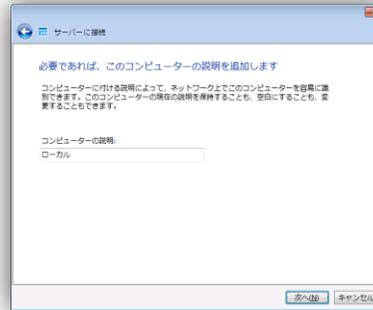
6. [再起動]をクリックします。



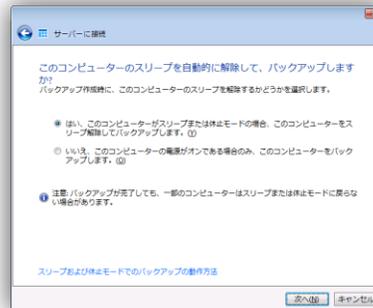
7. ローカルユーザーの移行方法を選択し、[次へ]をクリックします。
ローカルユーザーを移行しないオプションも選択できます。



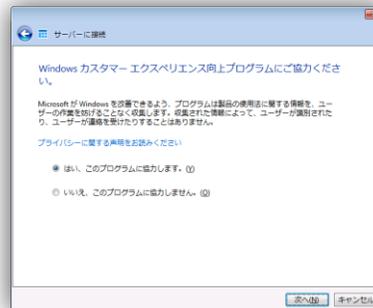
8. [コンピューターの説明]を入力し、[次へ]をクリックします。入力されたコンピューターの説明は、ダッシュボードに表示されません。



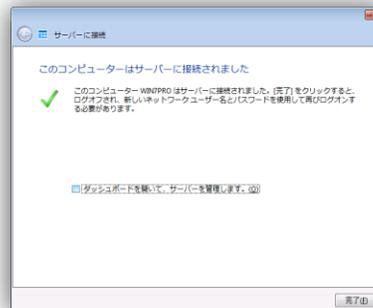
9. コンピューターがスリープしている時のバックアップの動作について選択し、[次へ]をクリックします。



10. オプションを選択し、[次へ]をクリックします。



11. [完了]をクリックします。



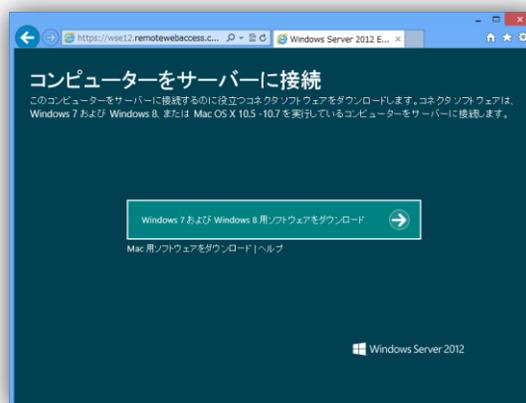
12. ログインするとスタートパッドが自動的に起動します。



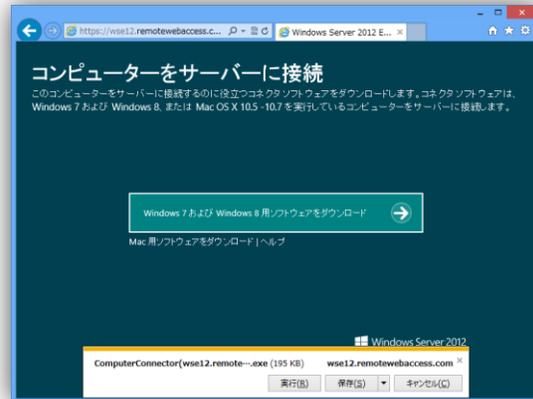
リモートネットワークの場合 (Windows 8)

遠隔地などのリモート環境からコネクタ アプリケーションをするには、Web ブラウザーを開き、<https://<リモート Web アクセスのアドレス>/connect> と入力します。コネクタをインストールする途中で VPN 接続環境が構築されます。この VPN 接続を使って、スタートパッドがインストールされ、サーバーフォルダーへのアクセス、バックアップの開始、リモート Web アクセス ページへの接続、ダッシュボードの表示を簡単に行うことができます。

1. Web ブラウザーを開き、[<https://<リモート Web アクセスのアドレス>/connect>] と入力します。



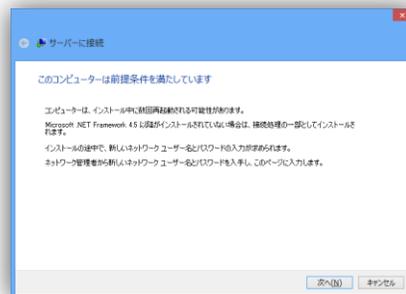
2. [実行]ボタンをクリックします。



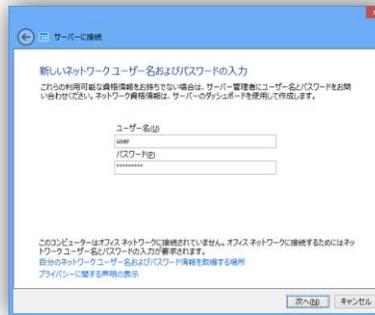
3. [次へ]をクリックします。



4. [次へ]をクリックします。



5. ユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



6. ユーザー名、パスワード、ドメインを入力し、[接続]をクリックします。

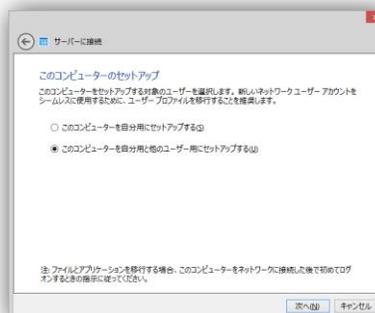


7. [再起動]をクリックします。

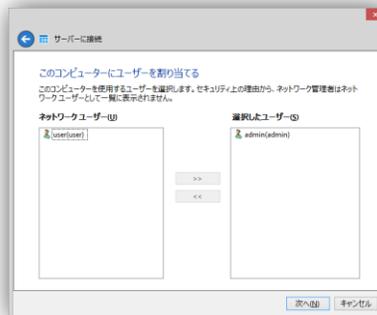


8. ローカルユーザーの移行方法を選択し、[次へ]をクリックします。

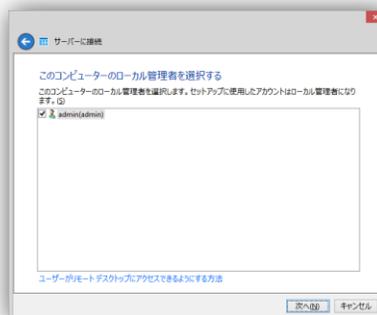
ローカルユーザーを移行しないオプションも選択できます。



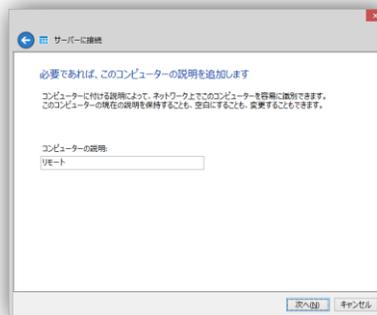
9. 割り当てるユーザーを選択します。[次へ]をクリックします。



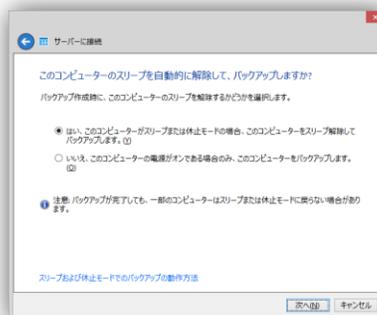
10. ローカル管理者を選択します。[次へ]をクリックします。



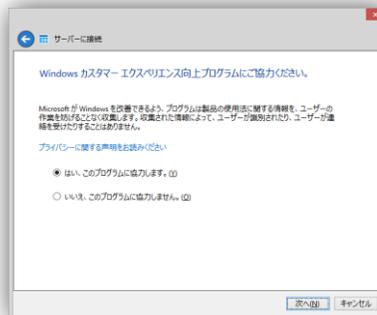
11. [コンピューターの説明]を入力し、[次へ]をクリックします。入力されたコンピューターの説明は、ダッシュボードに表示されます。



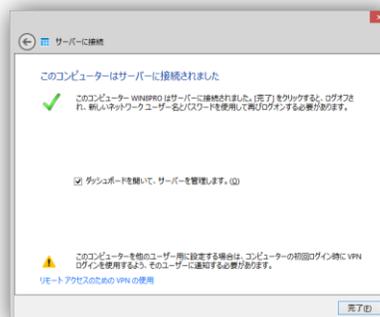
12. コンピューターがスリープしている時のバックアップの動作について選択し、[次へ]をクリックします。



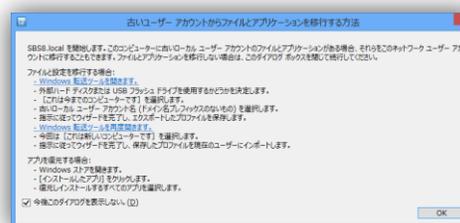
13. オプションを選択し、[次へ]をクリックします。



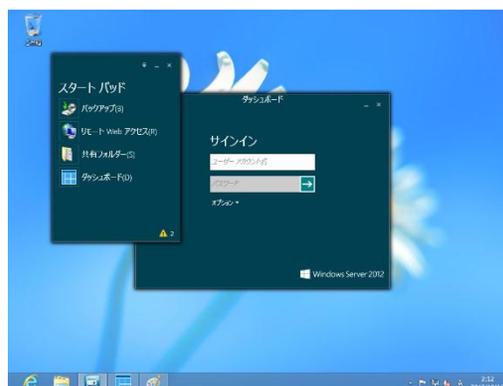
14. [完了]をクリックします。



15. ユーザーデータを移行するために移行ツールを使います。



16. ログインするとスタートパッドが自動的に起動します。



サーバーの場合 (Windows Server 2008 R2)

1. Web ブラウザーを開き、[http://<サーバー名>/connect]と入力します。



2. [実行]ボタンをクリックします。



3. [次へ]をクリックします。



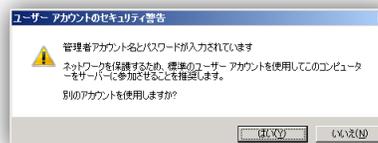
4. [次へ]をクリックします。



5. ユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



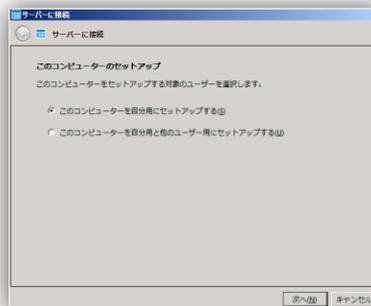
6. ユーザー名に管理者を指定した場合、ユーザーアカウントのセキュリティ警告のダイアログが表示されます。



7. [再起動]をクリックします。



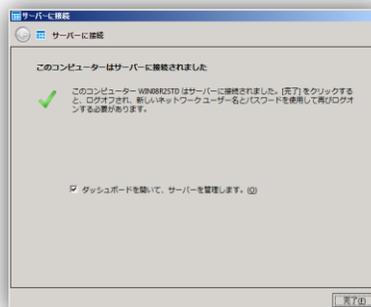
8. ローカルユーザーの移行方法を選択し、[次へ]をクリックします。



9. [コンピューターの説明]を入力し、[次へ]をクリックします。入力されたコンピューターの説明は、ダッシュボードに表示されます。



10. [完了]をクリックします。



MacOS X の場合

1. Web ブラウザーを開き、[http://<サーバー名>/connect]と入力します。

「Mac 用ソフトウェアをダウンロード」をクリックします。



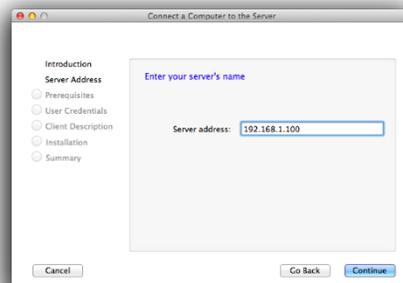
2. [Connector for Mac] をクリックします。



3. [Continue] をクリックします。



4. サーバーの IP アドレスを入力し、[Continue]をクリックします。



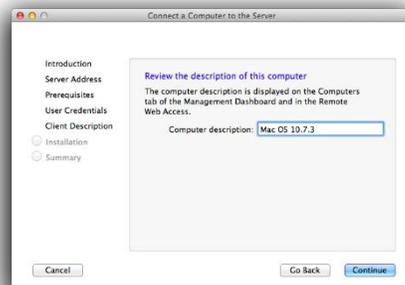
5. コンピューター名を入力し、[Continue] をクリックします。



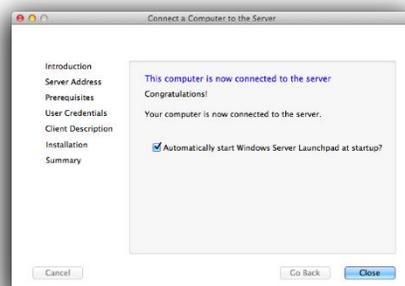
6. ユーザー名とパスワードを入力し、[Continue] をクリックします。



7. [コンピューターの説明]を入力し、[Continue] をクリックします。



8. スタートパッドを自動的に起動する場合は、チェックボックスにチェックを入れ、[Close] をクリックします。



- ログインすると Launchpad (スタートパッド) が自動的に起動されます。

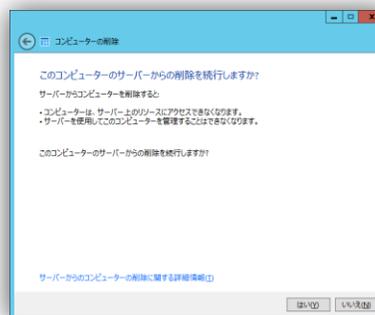


コンピューターの削除

Windows Server 2012 Essentials で登録されたコンピューターを削除する方法です。削除するコンピューターでそれまでに取得したバックアップを保持することもできます。

- 削除したいデバイスを選択し、各デバイスタスクの[コンピューターの削除]をクリックします。

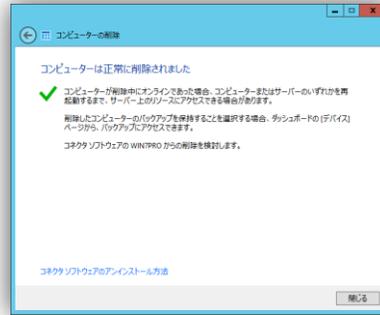
[はい]をクリックします。



- コンピューターバックアップをサーバー上にアーカイブするか選択します。[コンピューターの削除]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。

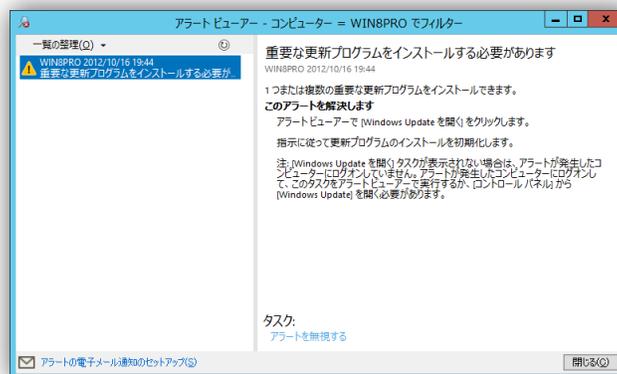


4. 削除したコンピューターバックアップのアーカイブをサーバー上に残した場合、コンピューターリストに[アーカイブされたコンピューターバックアップ]として表示されます。



デバイスのアラート表示

Windows Server 2012 Essentials で登録されたコンピューター上に表示されたアラートは、各コンピュータータスクの[コンピューターのアラートの表示]をクリックすると表示されます。

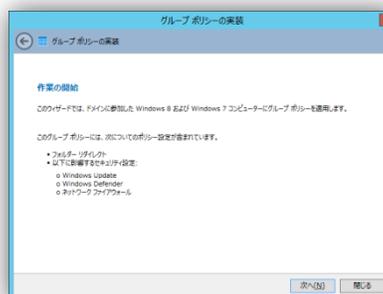


グループポリシーの実装

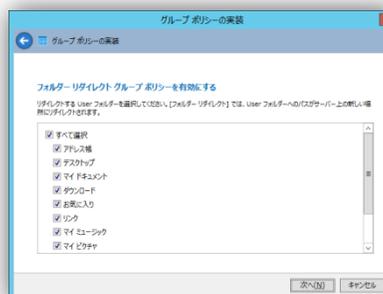
Windows Server 2012 Essentials に登録された Windows 8 と Windows 7 にセキュリティ強化のグループポリシーを適用します。

1. デバイス タスクの[グループポリシーの適用]をクリックします。

[次へ]をクリックします。



2. フォルダーリダイレクトの対象となるフォルダーを選択し、[次へ]をクリックします。



3. 有効にするセキュリティポリシーを選択し、[次へ]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



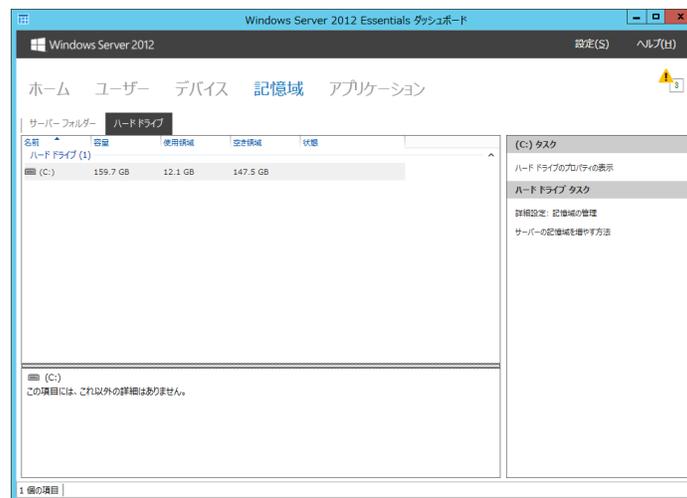
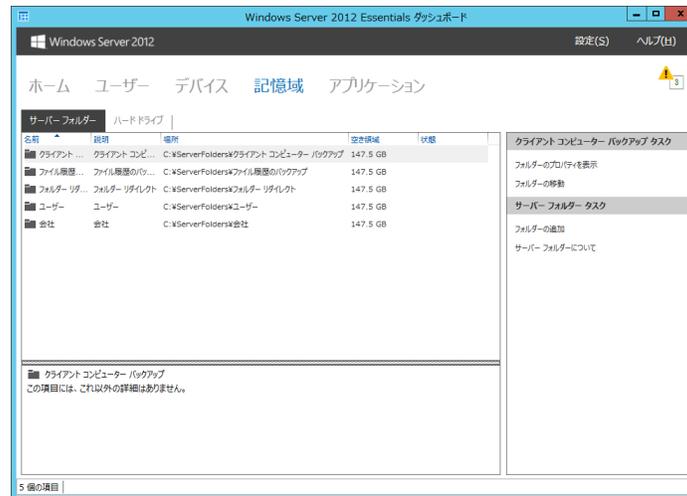
ベスト プラクティス アナライザー

ベスト プラクティス アナライザーによる Windows Server 2012 Essentials の 正常性の確認結果を確認することができます。また、正常性の確認を手動で実行することもできます。ベスト プラクティス アナライザー は、Windows Server 2012 Essentials を選択し、タスクにある[ベスト プラクティス アナライザー]をクリックすることで、実行されます。



Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダー(ディスク管理)

ここでは、Windows Server 2012 Essentials のディスク管理について紹介します。ディスク管理では、サーバーフォルダーやハードドライブの管理を行うことができます。サーバーフォルダーの追加、移動、削除などはダッシュボードの記憶域タブのサーバーフォルダー サブタブ(上図)で、ディスクの管理はハードドライブ サブタブ(下図)で管理します。

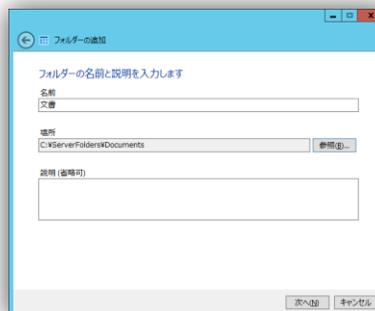


サーバーフォルダーの作成

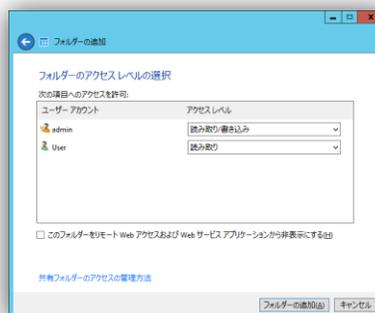
Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダーの作成する方法です。サーバーフォルダーは、文書やピクチャー画像などをサーバーフォルダーに保管し、データの保護を行います。

1. サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの追加]をクリックします。

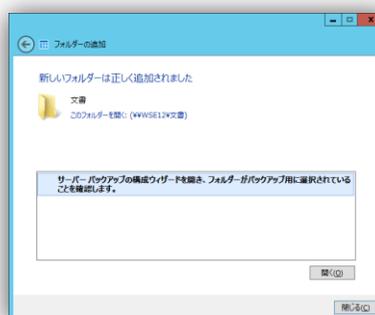
フォルダー名、フォルダーの場所、説明を入力し、[次へ]をクリックします。



2. 各ユーザーのアクセス権を設定し、[フォルダーの追加]をクリックします。



3. 作成したサーバーフォルダーがサーバーバックアップに含まれているか確認することができます。



サーバーフォルダーの移動

Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダーを別のドライブへ移動する方法です。この機能により、空き容量が少なくなったディスクから空き容量に余裕があるディスクへ安全にデータを移動することができます。サーバーフォルダーの移動中には、コンピューターからそのサーバーフォルダーへアクセスすることはできません。サーバーフォルダー移動後は、サーバーバックアップの構成を変更する必要がある場合があります。

1. 移動したいサーバーフォルダーを選択し、各サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの移動]をクリックします。

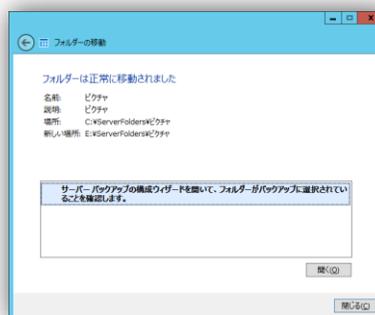
[次へ]をクリックします。



2. 移動先を選択し、[フォルダーの移動]をクリックします。



3. 移動したサーバーフォルダーがサーバーバックアップに含まれているか確認することができます。



4. サーバフォルダー リストビューでサーバフォルダーの場所を確認します。

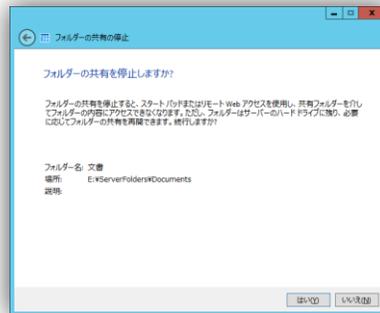


サーバフォルダーの共有の停止

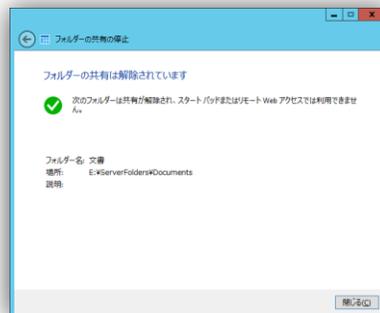
Windows Server 2012 Essentials のサーバフォルダーを停止する方法です。この機能によりコンピュータからサーバフォルダーへアクセスできなくなります。サーバ上のデータは削除されません。

1. 共有を停止したいサーバフォルダーを選択し、各サーバフォルダー タスクの [フォルダーの停止] をクリックします。なお、停止できるのは、管理者によって作成されたサーバフォルダーだけです。

[はい] をクリックします。



2. [閉じる] をクリックします。

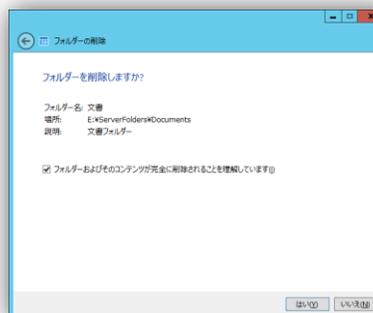


サーバーフォルダーの削除

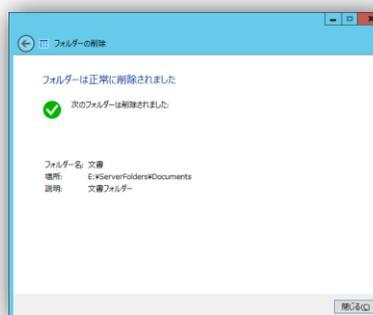
Windows Server 2012 Essentials のサーバーフォルダーを削除する方法です。この機能によりコンピュータからサーバーフォルダーへアクセスできなくなります。また、サーバー上のデータも削除されます。

1. 削除したいサーバーフォルダーを選択し、各サーバーフォルダー タスクの[フォルダーの削除]をクリックします。なお、削除できるのは、管理者によって作成されたサーバーフォルダーだけです。

[はい]をクリックします。



2. [閉じる]をクリックします。

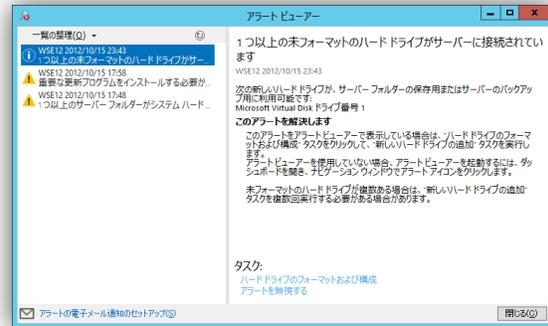


ハードドライブの追加(データドライブ)

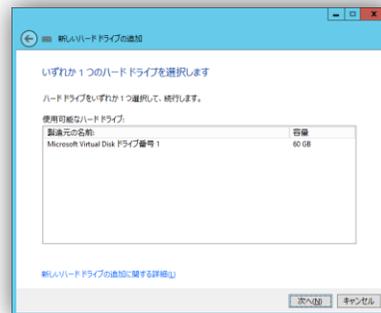
Windows Server 2012 Essentials のデータドライブを追加する方法です。Windows Server 2012 Essentials では、新しいハードディスクが追加されるとアラートビューアーに情報が表示されます。データドライブの追加では、ハードディスクはフォーマットされ、データドライブとして利用できるように構成されます。

1. 新しいハードディスクが追加されると、アラートビューアーに情報が表示されます。

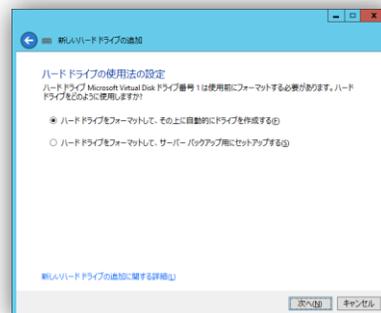
タスクの[ハードドライブのフォーマットおよび構成]をクリックします。



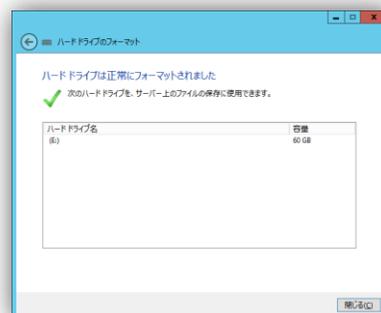
2. データドライブとして利用したいハードドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



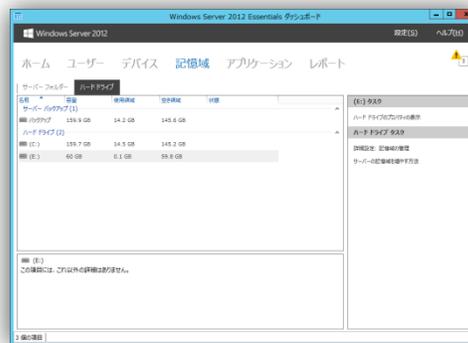
3. 既定の[ハードドライブをフォーマットしてその上に自動的にドライブを作成する]を選択し、[次へ]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



5. 記憶域のハードドライブリストビューに新しいドライブが表示されます。

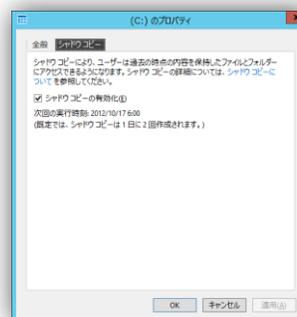
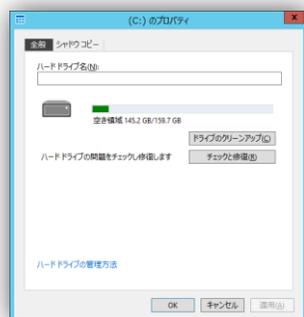


ハードドライブのプロパティ

Windows Server 2012 Essentials のハードドライブのプロパティについて紹介します。ハードドライブのプロパティでは、状態の表示だけでなく、不要なデータやアプリケーションを削除、ハードディスクの修復といったタスクも実行することができます。

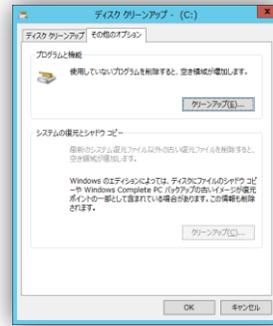
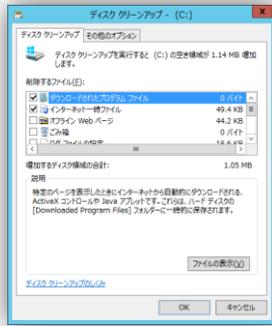
ステータス

ハードドライブの名前の変更、空き容量の確認、シャドーコピー機能の有効無効の設定をすることができます。



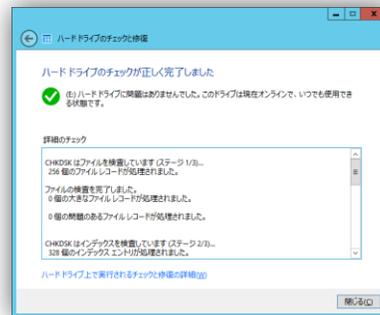
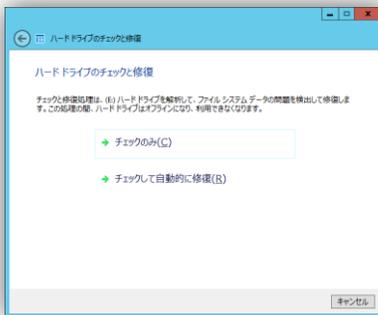
ドライブのクリーンアップ

ドライブのクリーンアップでは、ゴミ箱に移動されたファイルを削除する、不要なアプリケーションを削除することができます。



チェックと修復

チェックと修復ではハードドライブを解析してファイルシステムデータの問題を検出、修復をすることができます。ハードドライブ修復中は、ハードドライブにアクセスすることができなくなります。



Windows Server 2012 Essentials のバックアップ

ここでは、Windows Server 2012 Essentials のバックアップと復元について紹介します。バックアップでは、サーバー自身だけでなくコネクタ アプリケーションがインストールされたネットワーク上のコンピューターのバックアップも取得することができます。復元では、ファイルやフォルダー単位の復元からディスク、コンピューターごとの復元まで多様な復元方法があります。バックアップと復元はデバイスタブで行います。



コンピューターのバックアップの取得

Windows Server 2012 Essentials のコンピューターのバックアップを取得する方法です。

1. バックアップするコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップの開始]をクリックします。

バックアップのラベルを入力し、[OK]をクリックするとバックアップが開始されます。



2. デバイス リストビューのバックアップの状態が処理中となります。

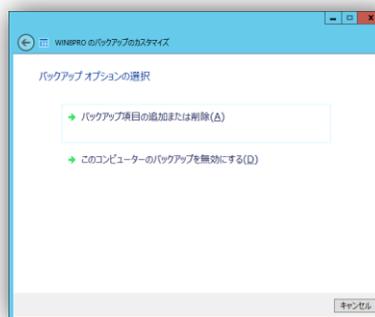


コンピューターのバックアップ項目の追加と削除

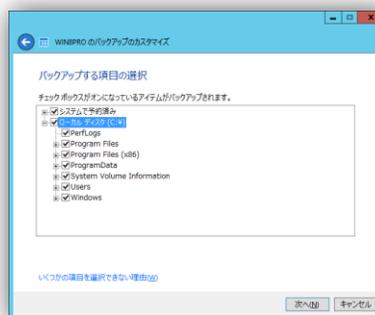
Windows Server 2012 Essentials のコンピューターのバックアップ項目の追加と削除する方法です。

1. 変更の対象となるコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップのカスタマイズ]をクリックします。

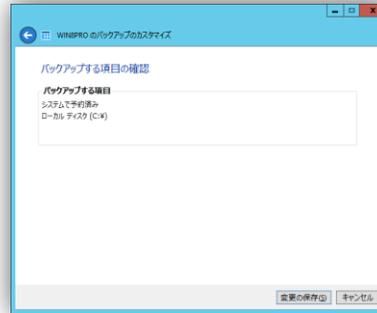
[バックアップ項目の追加または削除]をクリックします。



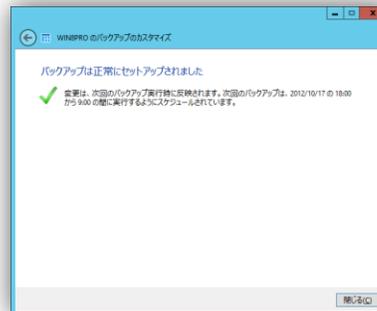
2. バックアップする項目を変更し、[次へ]をクリックします。



3. [変更の保存]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。

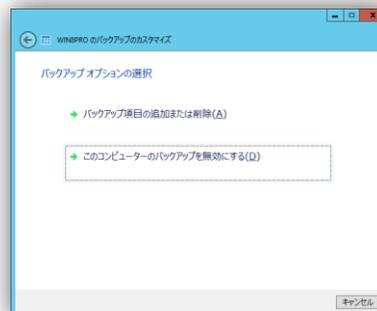


コンピューターのバックアップの無効

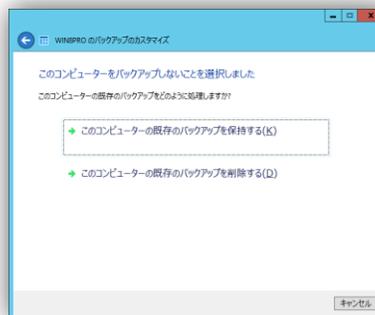
Windows Server 2012 Essentials のコンピューターのバックアップを無効にする方法です。すでに取得されたバックアップ ファイルを残すことも削除することもできます。

1. 変更の対象となるコンピューターを選択し、タスクにある[コンピューターのバックアップのカスタマイズ]をクリックします。

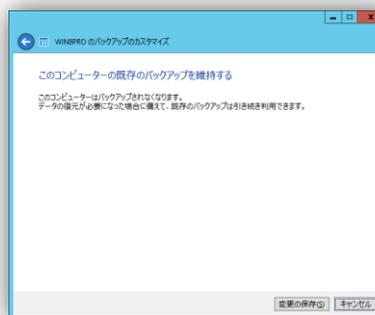
[このコンピューターのバックアップを無効にする]をクリックします。



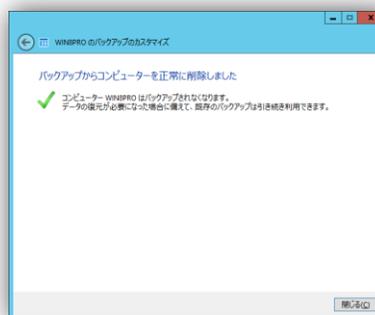
2. 既存のバックアップを保持もしくは削除のいずれかを選択します。



3. [変更の保存]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。



コンピューターの復元(ベアメタル回復)

Windows Server 2012 Essentials に保存されたバックアップを使ってコンピューターを完全に復元することができます。コンピューターを回復するには、リストア用 CD もしくは、回復キーが保存された USB メモリが必要です。

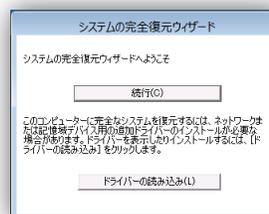
1. リストア用 CD もしくは、コンピューター回復キーを保存した USB から復元したいコンピューターを起動します。



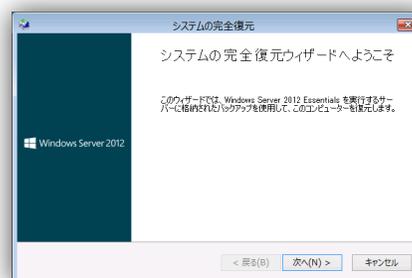
2. [続行]をクリックします。



3. 必要に応じて、ドライバーを読み込むことができます。[続行]をします。



4. [次へ]をクリックします。



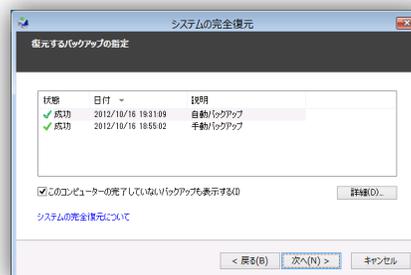
5. サーバーにログインするユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。



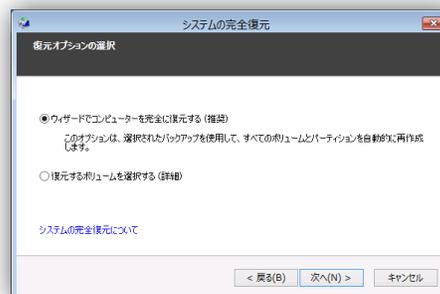
6. 復元するコンピューターを選択し、[次へ]をクリックします。



7. 復元するバックアップデータを選択し、[次へ]をクリックします。



8. 推奨設定のまま、[次へ]をクリックします。



9. [次へ]をクリックすると復元が始まります。



10. [完了]をクリックします。

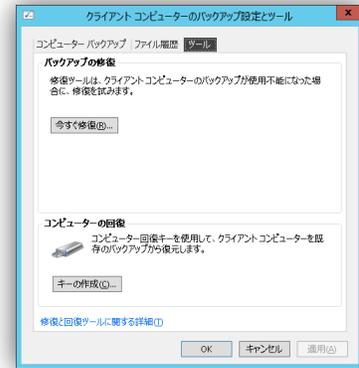
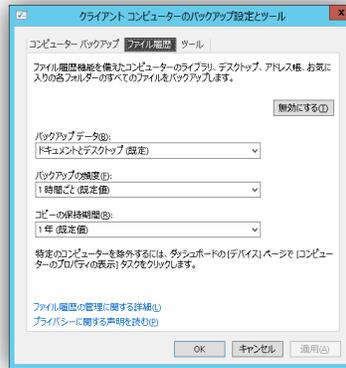
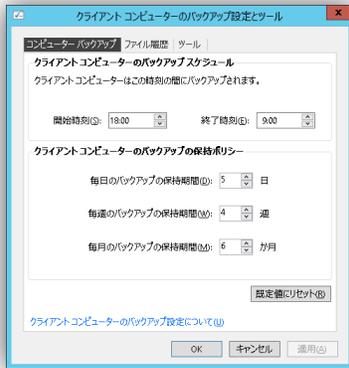


11. 復元したコンピュータにログインします。



コンピューターのバックアップとファイルの履歴の設定

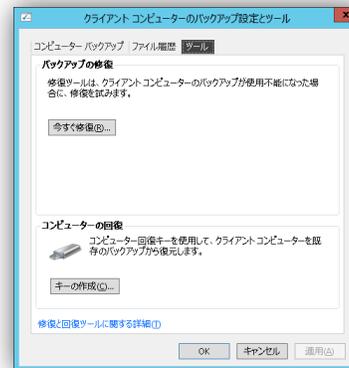
コンピューターのバックアップのスケジュール、ファイルの履歴の確認や変更、バックアップデータの修復、コンピューターを復元の時に使用する復元キーの作成ができます。



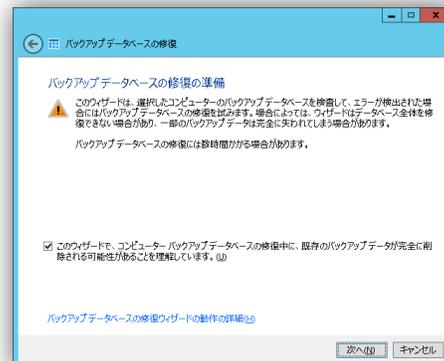
バックアップ データベースの 修復

バックアップデータの修復を行います。

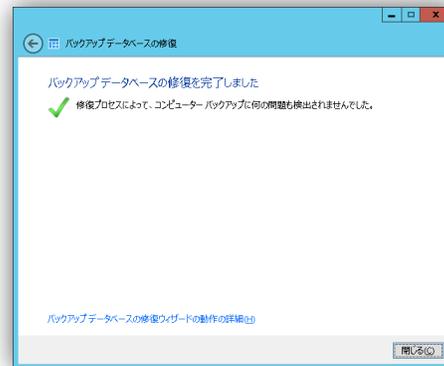
1. [今すぐ修復]をクリックします。



2. [次へ]をクリックします。



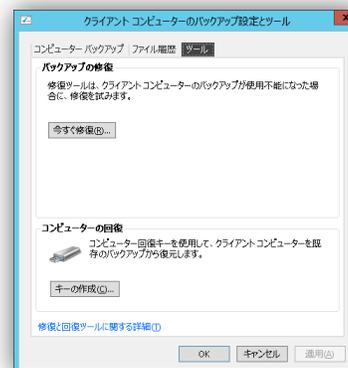
3. [閉じる]をクリックします。



コンピューターの回復ツール

コンピューターの回復に使用する回復キーを作成します。回復キーの作成には、USB フラッシュドライブ(USB メモリ)が必要です。

1. [キーの作成]をクリックします。



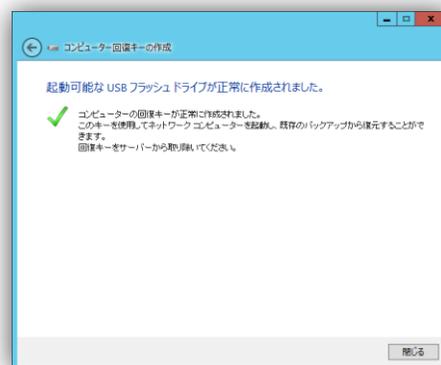
2. [次へ]をクリックします。



- 回復キーを保存する USB フラッシュドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



- [閉じる]をクリックします。

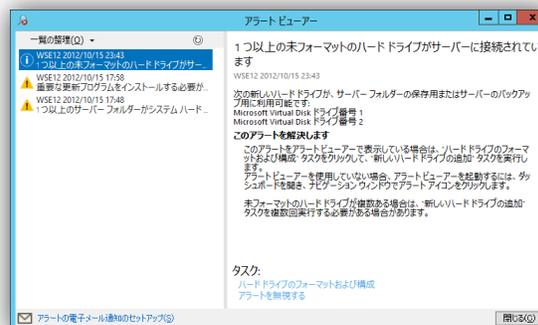


ハードドライブの追加(バックアップ ディスク)

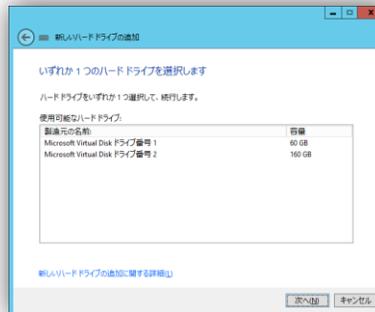
Windows Server 2012 Essentials のバックアップ ディスクの追加する方法です。Windows Server 2012 Essentials では、新しいハードディスクが追加されるとアラートビューアーに情報が表示されます。バックアップ ディスクの追加では、ハードディスクはフォーマットされ、バックアップ ディスクとして利用できるように設定します。

- 新しいハードディスクが追加されると、アラートビューアーに情報が表示されます。

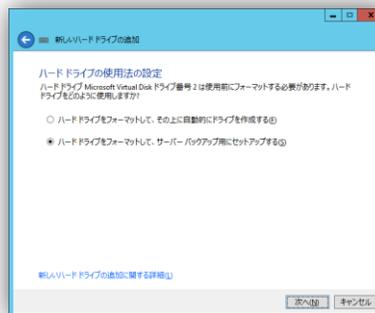
タスクの[ハードドライブのフォーマットおよび構成]をクリックします。



2. バックアップ用に利用したいハードドライブを選択し、[次へ]をクリックします。



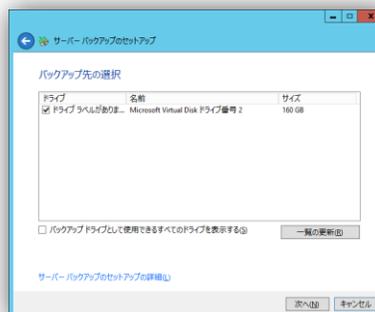
3. [ハードドライブをフォーマットして、サーバーバックアップ用にセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。



4. [次へ]をクリックします。



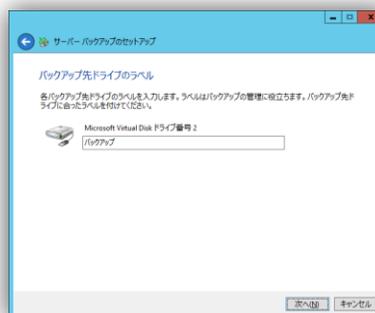
5. バックアップするディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



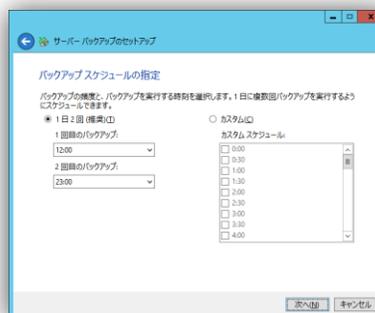
6. 選択されたディスクが再フォーマットされる警告が表示されます。



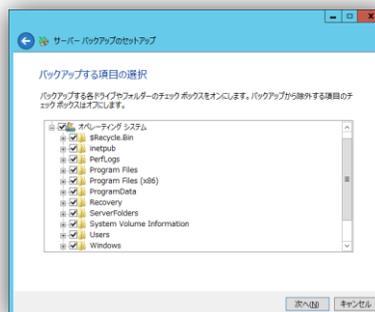
7. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



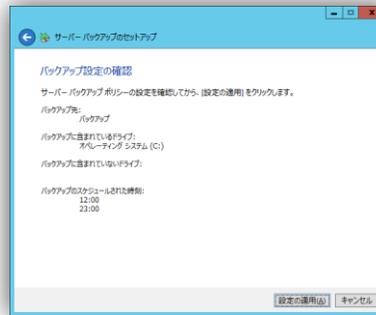
8. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。



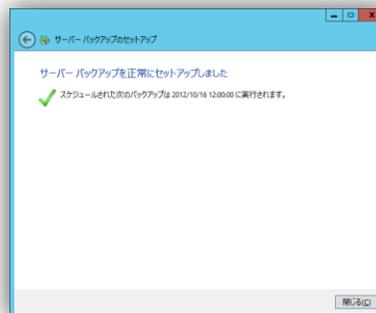
9. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



- バックアップの設定項目一覧が表示されま
す。設定内容が正しければ、[設定の適用]
をクリックします。修正が必要な場合は、
左上の戻るボタンをクリックし、修正する項
目のページに戻ります。



- サーバーバックアップの設定が完了しまし
た。[閉じる]をクリックします。



サーバーバックアップの取得

Windows Server 2012 Essentials のバックアップを手動で取得する方法です。

- Windows Server 2012 Essentials を選択
し、個別タスクにある[サーバーのバック
アップの開始]をクリックします。

[はい]をクリックします。



- デバイス リストビューのバックアップの状
態が処理中となります。



サーバーバックアップの設定の変更

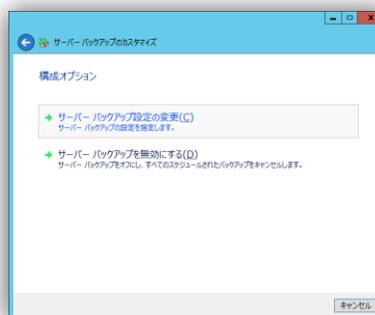
Windows Server 2012 Essentials のバックアップ設定を変更する方法です。サーバーフォルダーの作成や移動、データディスクを新たに追加した場合などにバックアップの設定を見直す必要があります。

1. Windows Server 2012 Essentials を選択し、個別タスクにある[サーバーのバックアップのカスタマイズ]をクリックします。

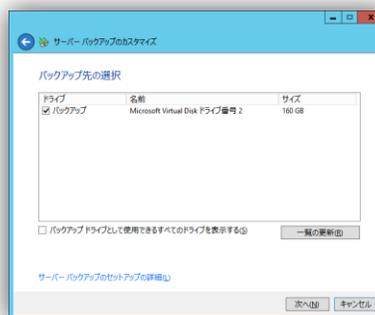
[次へ]をクリックします。



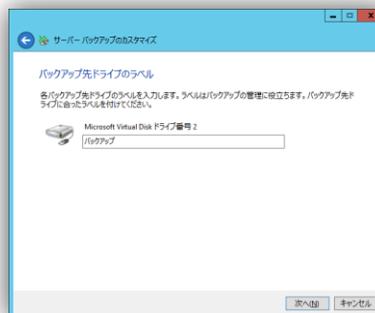
2. [サーバーバックアップ設定の変更]を選択します。



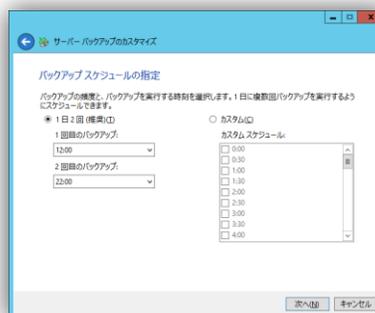
3. バックアップするディスクを選択し、[次へ]をクリックします。



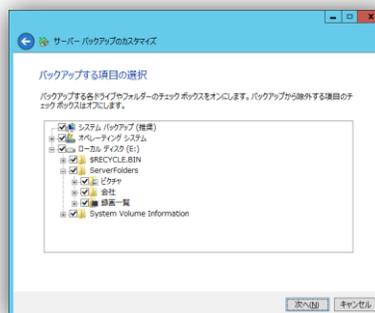
4. バックアップ先のドライブにつけるラベルを入力し、[次へ]をクリックします。



5. バックアップスケジュールを選択し、[次へ]をクリックします。



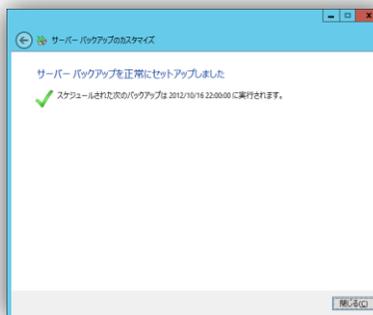
6. バックアップする項目を選択し、[次へ]をクリックします。



7. バックアップの設定項目一覧が表示されず。設定内容が正しければ、[設定の適用]をクリックします。修正が必要な場合は、左上の戻るボタンをクリックし、修正する項目のページに戻ります。



8. サーバーバックアップの設定が完了しました。**[閉じる]**をクリックします。



サーバーバックアップの無効

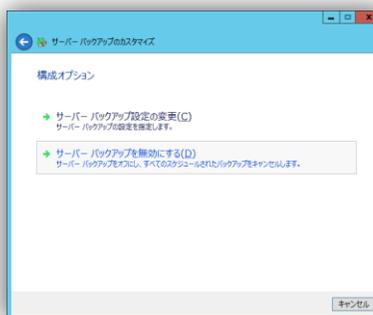
Windows Server 2012 Essentials のバックアップを無効にする方法です。バックアップを無効にした場合、今まで取得したバックアップファイルは、そのまま保持されます。

1. Windows Server 2012 Essentials を選択し、個別タスクにある**[サーバーのバックアップのカスタマイズ]**をクリックします。

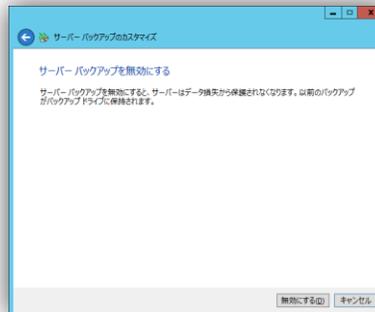
[次へ]をクリックします。



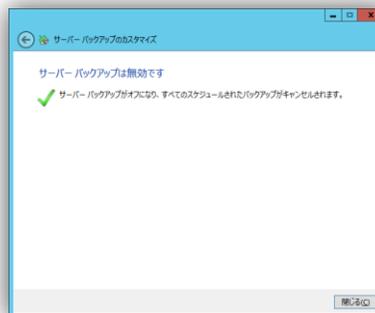
2. **[サーバーバックアップを無効にする]**を選択します。



3. [無効にする]をクリックします。



4. [閉じる]をクリックします。

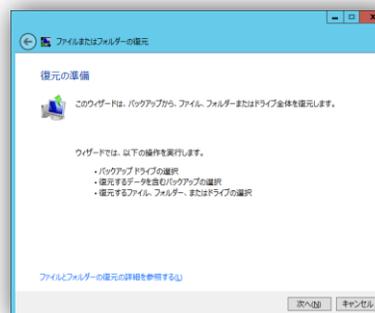


サーバーの復元(ファイルとフォルダー)

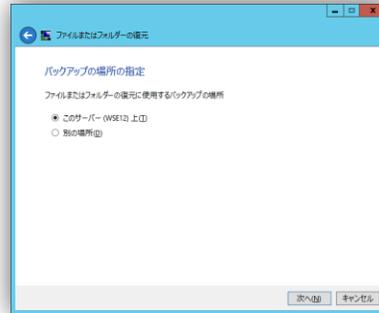
Windows Server 2012 Essentials をバックアップファイルからファイルやフォルダーを復元する方法です。復元は、ファイルやフォルダー単位だけでなく、ドライブ全体も復元することができます。また、復元場所は、元の場所と別の場所を選択することができます。

1. Windows Server 2012 Essentials を選択し、個別タスクにある[サーバーのファイルまたはフォルダーの復元]をクリックします。

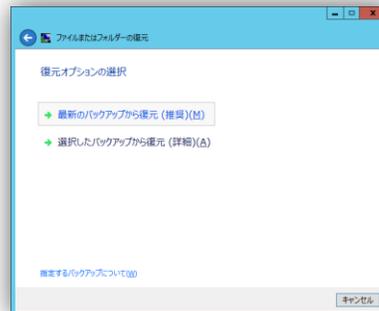
[次へ]をクリックします。



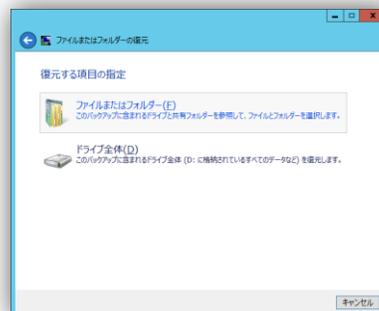
2. バックアップデータのある場所を選択し、[次へ]をクリックします。



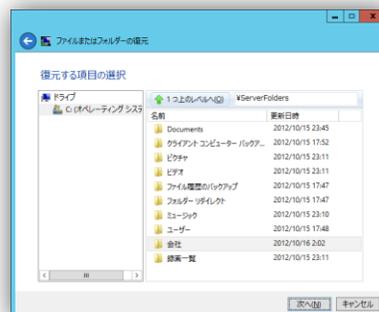
3. [最新のバックアップから復元 (推奨)]を選択します。



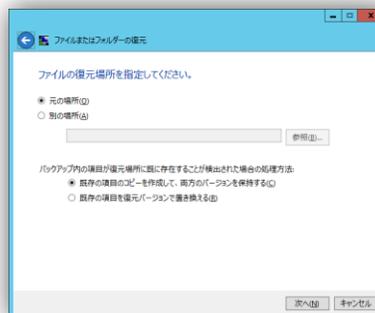
4. [ファイルまたはフォルダー]を選択します。



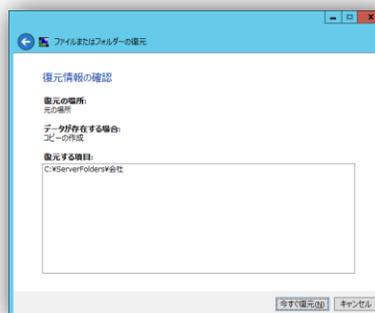
5. 復元するファイルまたはフォルダーを選択し、[次へ]をクリックします。



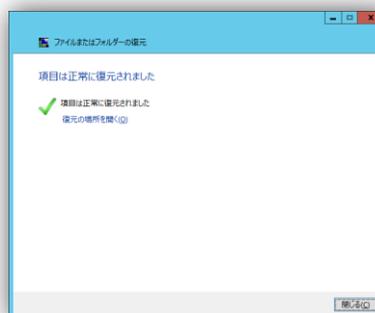
6. 復元する場所を選択します。今回は、元の場所を選択します。[次へ]をクリックします。



7. [今すぐ復元]をクリックすると復元が始まります。



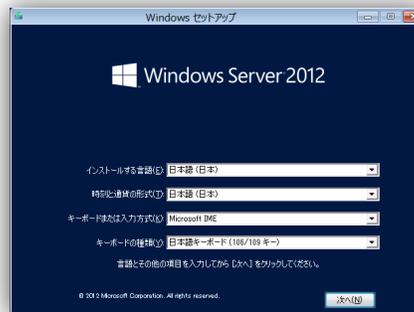
8. [閉じる]をクリックします。



サーバーの復元(ベアメタル回復)

Windows Server 2012 Essentials をバックアップファイルからサーバーを完全回復する方法です。バックアップファイルは、ローカルに接続されたバックアップディスクだけでなくネットワーク上の共有ストレージにも対応しています。

1. インストール DVD メディアからコンピューターを起動します。[次へ]をクリックします。



2. 左下の[コンピューターを修復する]をクリックします。



3. [トラブルシューティング]をクリックします。



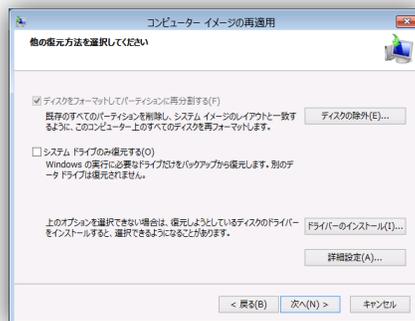
4. [イメージでシステムを回復]をクリックします。



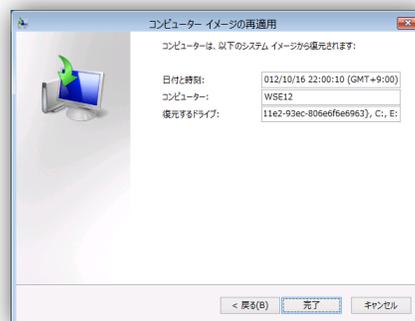
5. 復元に使用するバックアップデータを選択します。ここでは、最新のバックアップデータを選択します。



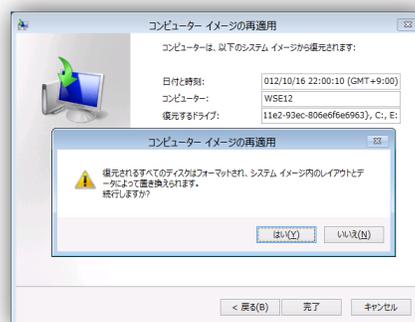
6. 復元方法を選択します。ここでは、既定のまま、[次へ]をクリックします。



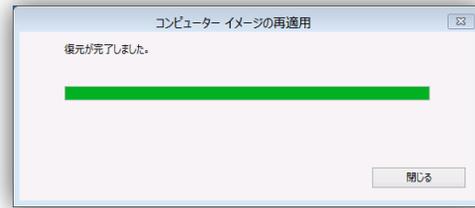
7. [完了]をクリックします。



8. 復元先のディスクがフォーマットされるダイアログボックスが表示されます。[はい]をクリックすると復元が始まります。



9. 復元が完了すると再起動され、復元された Windows Server 2012 Essentials が起動します。



Windows Server 2012 Essentials のアプリケーション

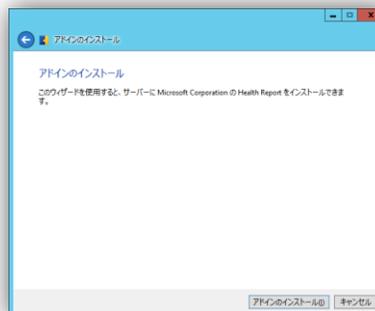
アドインのインストール

Windows Server 2012 Essentials の機能を拡張するアドインをインストール方法の紹介をします。

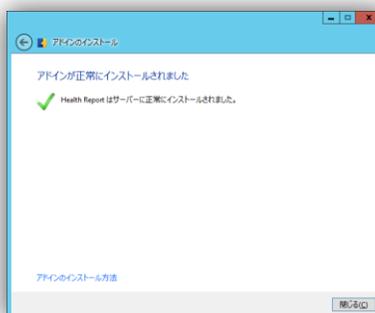
1. インストールしたいアドインを実行します。
ソフトウェアライセンス条項を[承諾]します。



2. [アドインのインストール]をクリックします。



3. [閉じる]をクリックします。



4. アドインのインストールが完了しました。
([Windows Server 2012 Essentials 状態
レポート]アドインがダッシュボードヘインス
トール)



5. アドインによって生成される状態レポート



Windows Server 2012 Essentials のスタートパッド

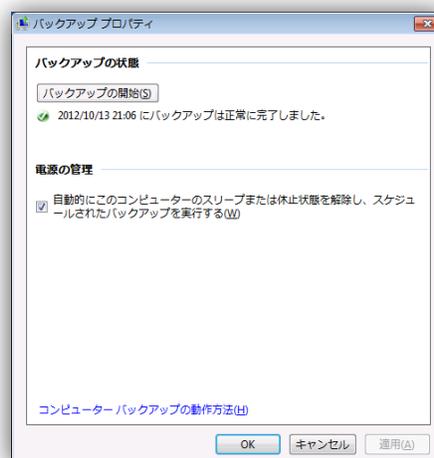
Windows Server 2012 Essentials の スタート パッドは、コンピューターがサーバーに初めて接続するときにインストールされる小型アプリケーションです。スタート パッドにより、認証されたユーザーはコンピューターのバックアップ、共有ファイルおよびリモート アクセス Web サイトなどの Windows Server 2012 Essentials の主要機能にアクセスできます。

ユーザーはこれらの機能に、ドメインに参加しているコンピューターとドメインに参加していないコンピューターのどちらからでもアクセスできます。また、スタート パッドはコンピューターの正常性に関するリアルタイム情報と通知を表示します。管理者は、コンピューターがネットワークに接続していない場合でも、スタート パッドを使用してサーバーのダッシュボードにアクセスすることができます。



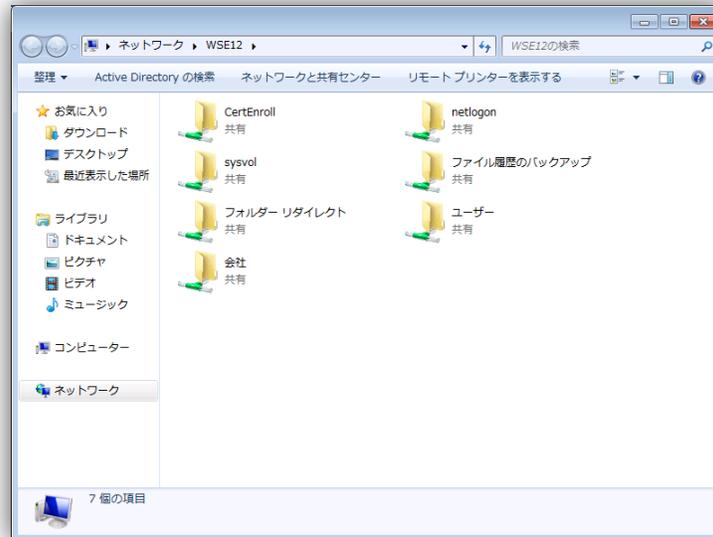
バックアップ

スタートパッドからコンピューターのバックアップの状況について確認できます。また、コンピューターのバックアップを手動で実行することもできます。



サーバーフォルダー

スタートパッドからエクスプローラーを起動して、サーバーフォルダーへアクセスすることができます。



リモート Web アクセス

スタートパッドからインターネットブラウザを起動して、Windows Server 2012 Essentials の リモート Web アクセス サイトへアクセスします。



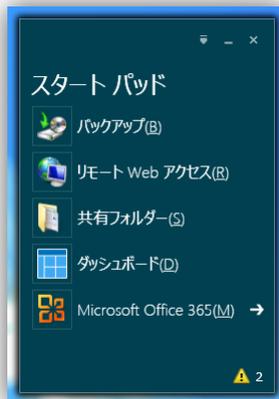
ダッシュボード

管理者は、スタートパッドからダッシュボードを起動します。ダッシュボードを起動するオプションを選択することができます。



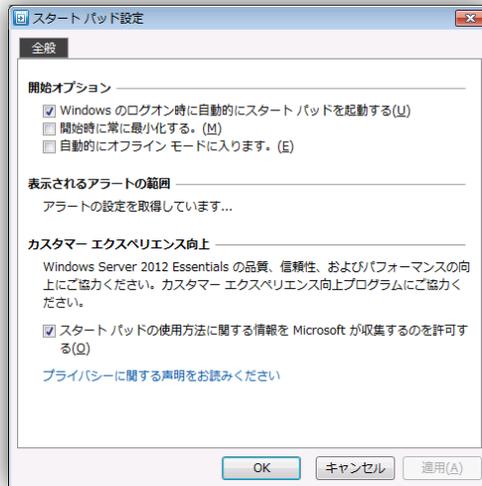
Office 365

電子メールサービスに Office 365 を選択した場合、スタートパッドからも Office 365 の各サイトへアクセスできるようにスタートパッドが変更されます。



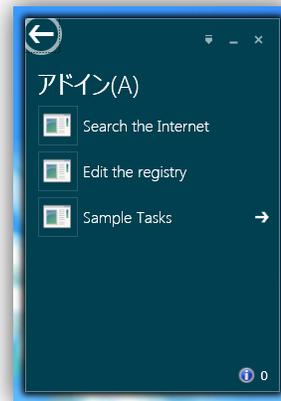
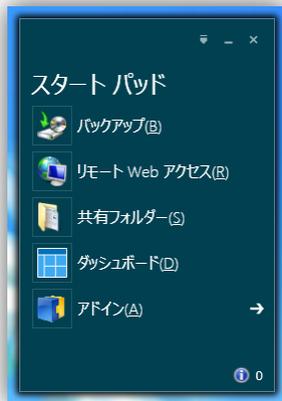
スタートパッドの設定

スタートパッドの開始オプション、表示されるアラートの範囲の設定をすることができます。



スタートパッドのアドイン

スタートパッドは、XML ファイルを使ってアドインとしてカスタマイズすることができます。

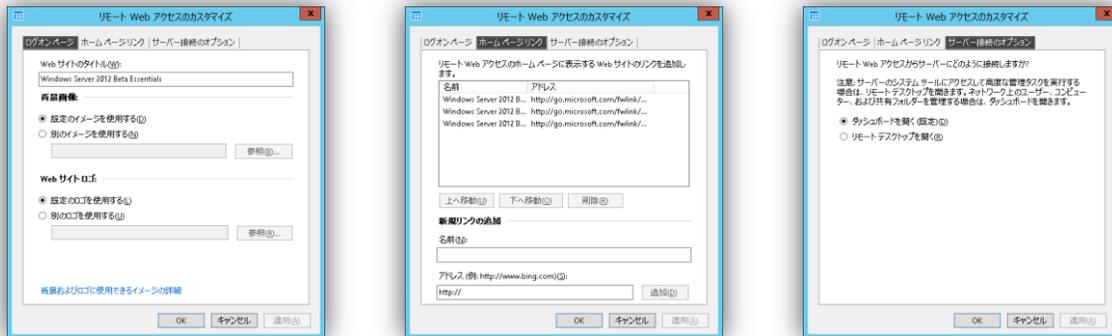


Windows Server 2012 Essentials のリモートアクセス (AnywhereAccess)

リモート Web アクセスのカスタマイズ

Windows Server 2012 Essentials のリモート Web アクセスは、カスタマイズすることができます。カスタマイズできる項目は以下のとおりです。

- サイトのタイトル
- サイトのイメージ
- サイトのロゴ
- リンク
- サーバーの起動方法 (ダッシュボード、リモートデスクトップ)



リモート Web アクセス サイト

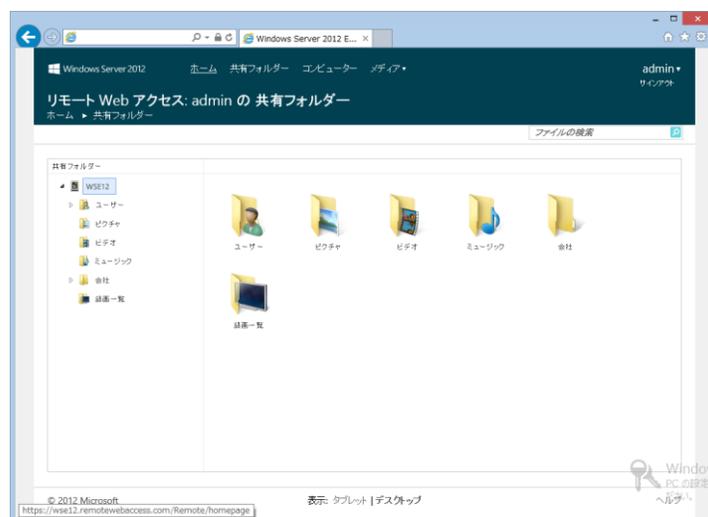
ホーム

リモート Web アクセスのメニューにあたる画面です。ここからコンピューター、共有フォルダー、リンクにアクセスできます。メディアサーバーの機能が有効の場合は、メディア ライブラリーが、電子メールサービスに Office 365 を選択している場合は、Office 365 の Web サイトへアクセスするリンク の Web パーツが追加されます。



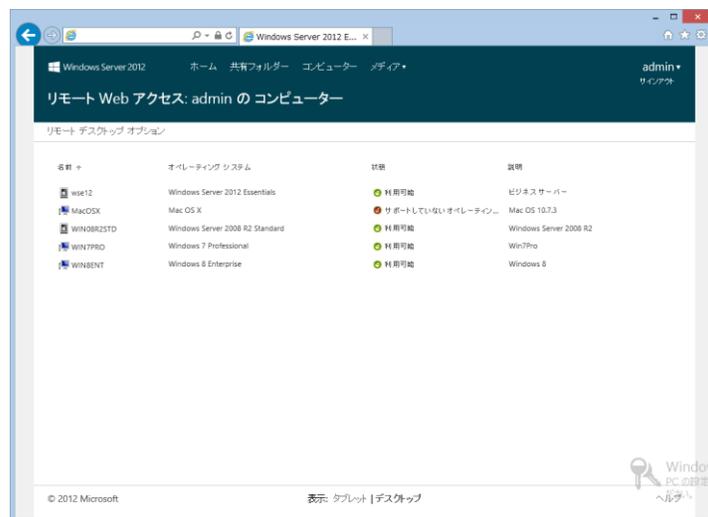
共有フォルダー

Web ブラウザーを使ってサーバーフォルダーへアクセスすることができます。サーバーフォルダー内のデータの閲覧、ダウンロード、アップロードができます。データの閲覧では、一覧表示とアイコン表示が選択できます。複数ファイルのダウンロードでは、自己解凍形式もしくは、ZIP 圧縮による一括ダウンロードができるようになっています。アドインをインストールするとドラッグアンドドロップで複数ファイルのアップロードができるようになります。



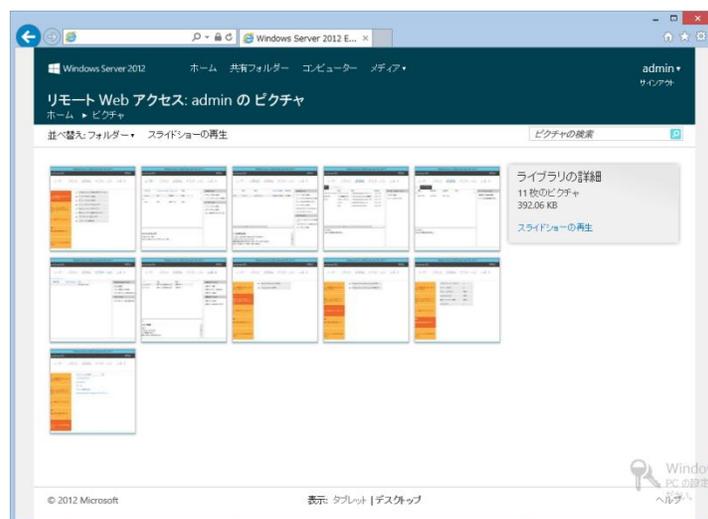
コンピューター

Windows Server 2012 Essentials で管理しているコンピューターの一覧が表示されます。リモートデスクトップによりアクセスすることができます。リモートデスクトップオプションでは、リモートコンピュータとローカルコンピュータ間のプリンターやドライブなどのリソースの共有方法を選択することができます。



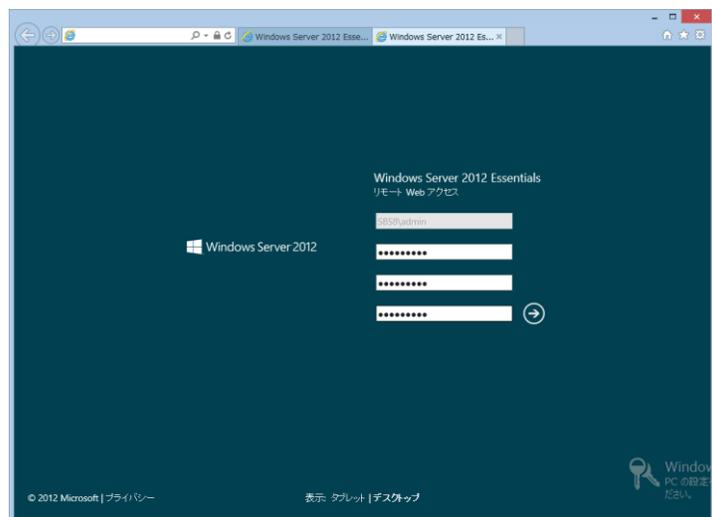
メディアライブラリ

メディアライブラリでは、指定のサーバーフォルダーに保存されているデータを閲覧することができます。スライドショーやビデオのリモート再生が可能です。



パスワード変更

ホーム右上のログオンユーザーをクリックするとユーザーアカウントのパスワードの変更ができます。



リソース

Windows Server 2012 Essentials のブログ

Windows Server 2012 Essentials の最新の技術情報については、Technet サイト <http://technet.microsoft.com/ja-jp/sbs/jj159331> を参照してください。

Windows Server 2012 Essentials の最新情報については、製品の Web サイト <http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/windows-server-essentials/default.aspx> を参照してください。